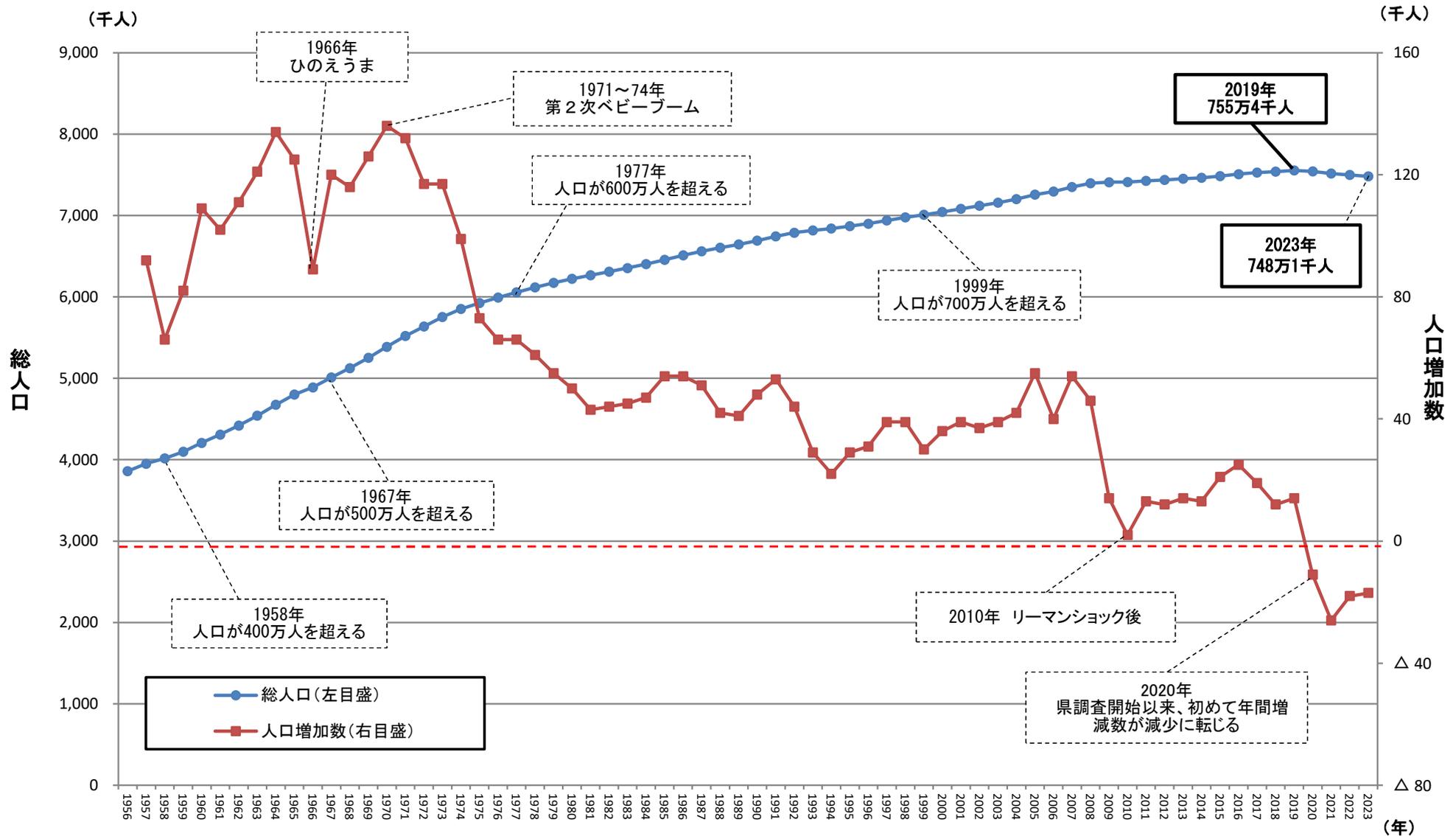


愛知県の人口動向について

愛知県の人口の推移



○ 愛知県の人口は、2019年の約755万4千人をピークに4年連続の減少となり、2023年10月1日時点で約748万1千人となっている。

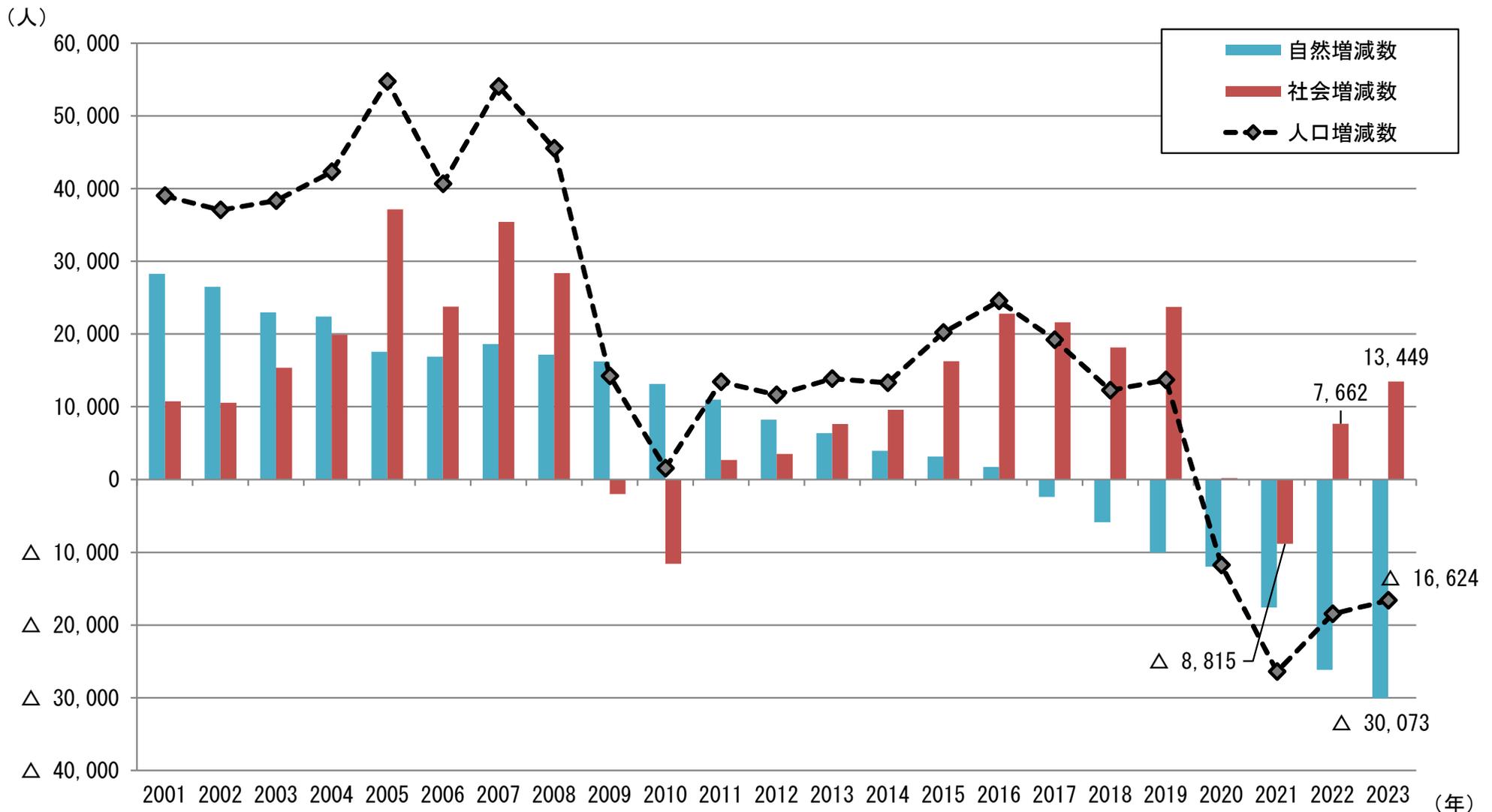


出典:愛知県「あいちの人口」をもとに作成
 ※総人口は各年10月1日現在、人口増加数は前年10月～当年9月

要因別の人口増減数の推移



- 愛知県の人口の自然増減数は、2017年に減少に転じて以降、減少幅が拡大しており、2023年は30,073人の減少となった。
- 一方で社会増減数は、経済環境や新型コロナウイルス感染症の影響を受け、2021年は11年ぶりにマイナスとなったが、2022年から増加に転じ、2023年は13,449人の増加となった。



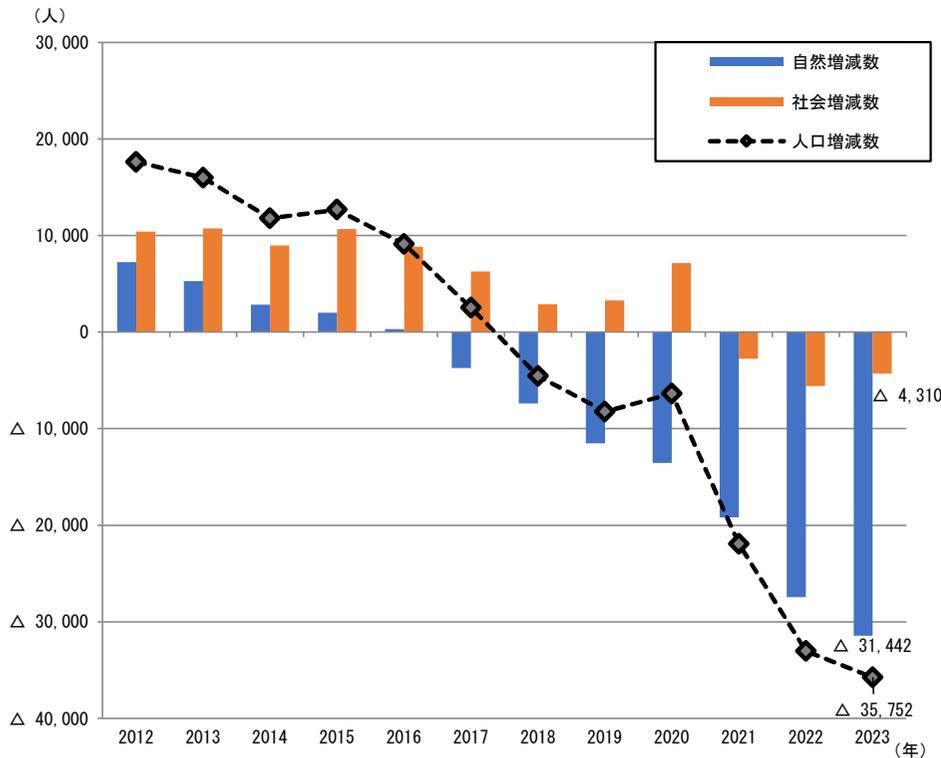
出典:愛知県「あいちの人口」をもとに作成 ※人口増減数は前年10月～当年9月

日本人・外国人別の人口増減数の推移

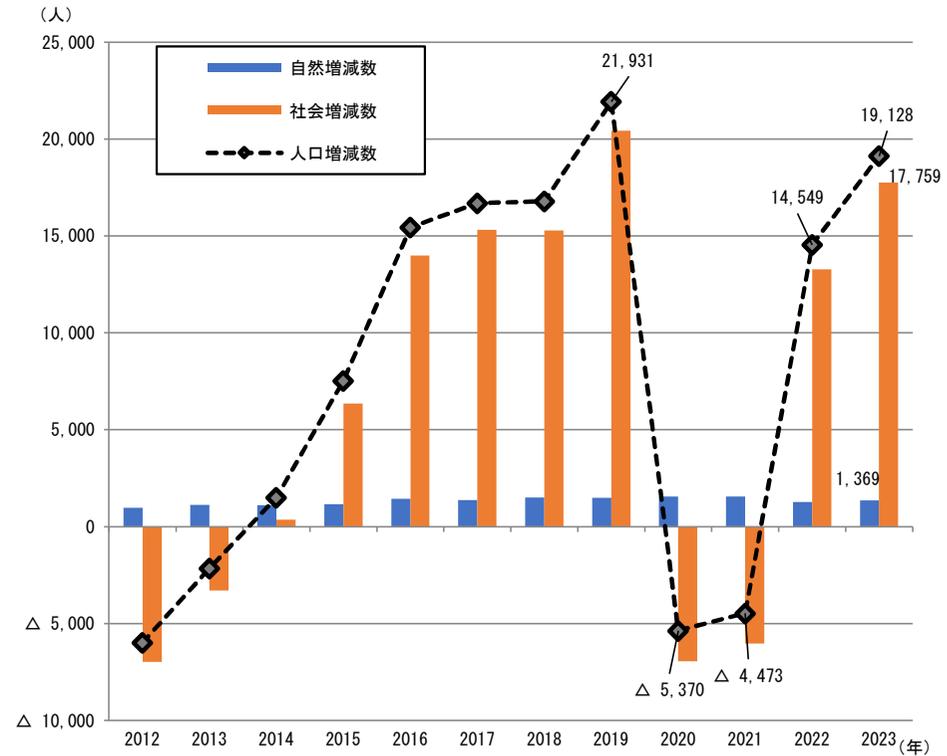


- 県内の日本人は、自然減の拡大に伴い、減少幅が拡大している。
- 外国人の人口については、2019年は年2万人を超える増加であったものの、新型コロナウイルス感染拡大に伴う入国規制等により、2020年・2021年は減少となった。入国規制の緩和等に伴い、2022年は再び増加に転じ、2023年は19,128人の増加となった。

■日本人



■外国人



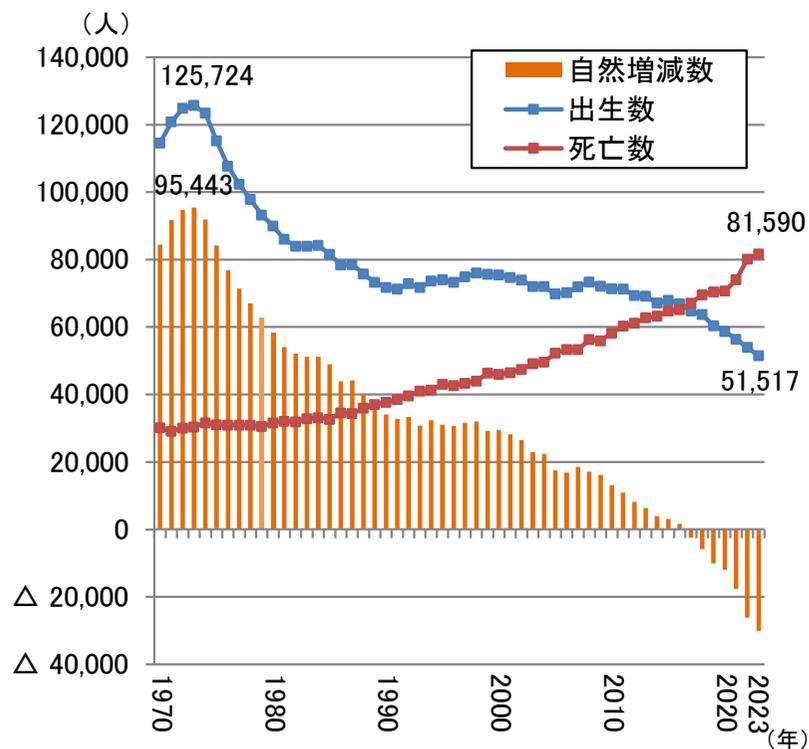
出典:愛知県「あいちの人口」をもとに作成
 ※人口増減数は前年10月～当年9月

自然増減



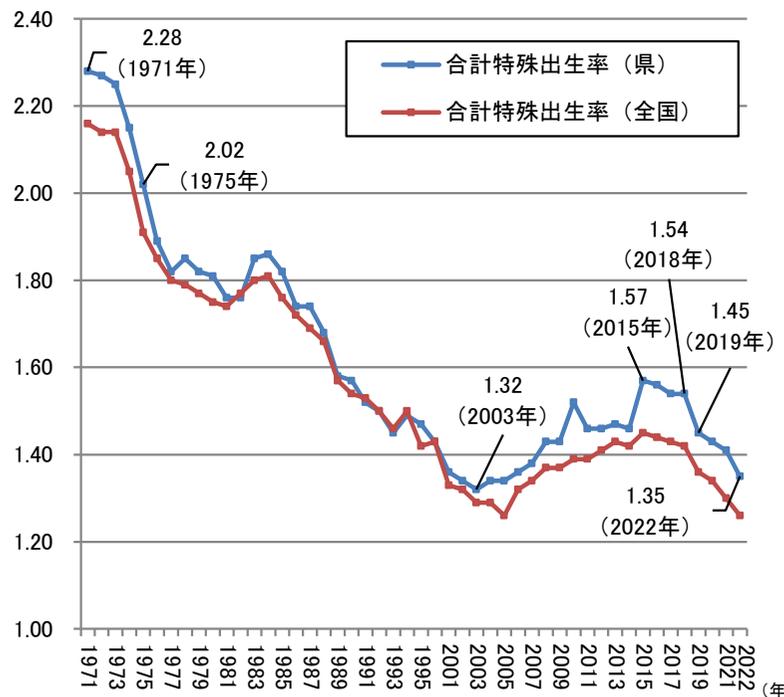
- 愛知県の出生数は減少が続く一方、死亡数は大きく増加しており、自然増減数の減少幅の拡大が続いている。
- 合計特殊出生率は2003年の1.32を底に緩やかな上昇傾向が続いていたが、2015年を境に低下傾向となり、2022年は1.35。全国で高い方から26番目であるが、大都市圏の中では高い水準。

■ 愛知県の自然増減数の推移



出典：愛知県「あいちの人口」をもとに作成

■ 合計特殊出生率の推移



出典：厚生労働省「人口動態統計」

※都道府県別合計特殊出生率

順位	都道府県名	合計特殊出生率
1	沖縄県	1.70
2	宮崎県	1.63
3	鳥取県	1.60
4	島根県	1.57
5	長崎県	1.57
6	鹿児島県	1.54
7	佐賀県	1.53
8	熊本県	1.52
9	福井県	1.50
10	大分県	1.49

26	愛知県	1.35
----	-----	------

38	大阪府	1.22
39	岩手県	1.21
40	京都府	1.18
41	秋田県	1.18
42	千葉県	1.18
43	神奈川県	1.17
44	埼玉県	1.17
45	北海道	1.12
46	宮城県	1.09
47	東京都	1.04

全国	1.26
----	------

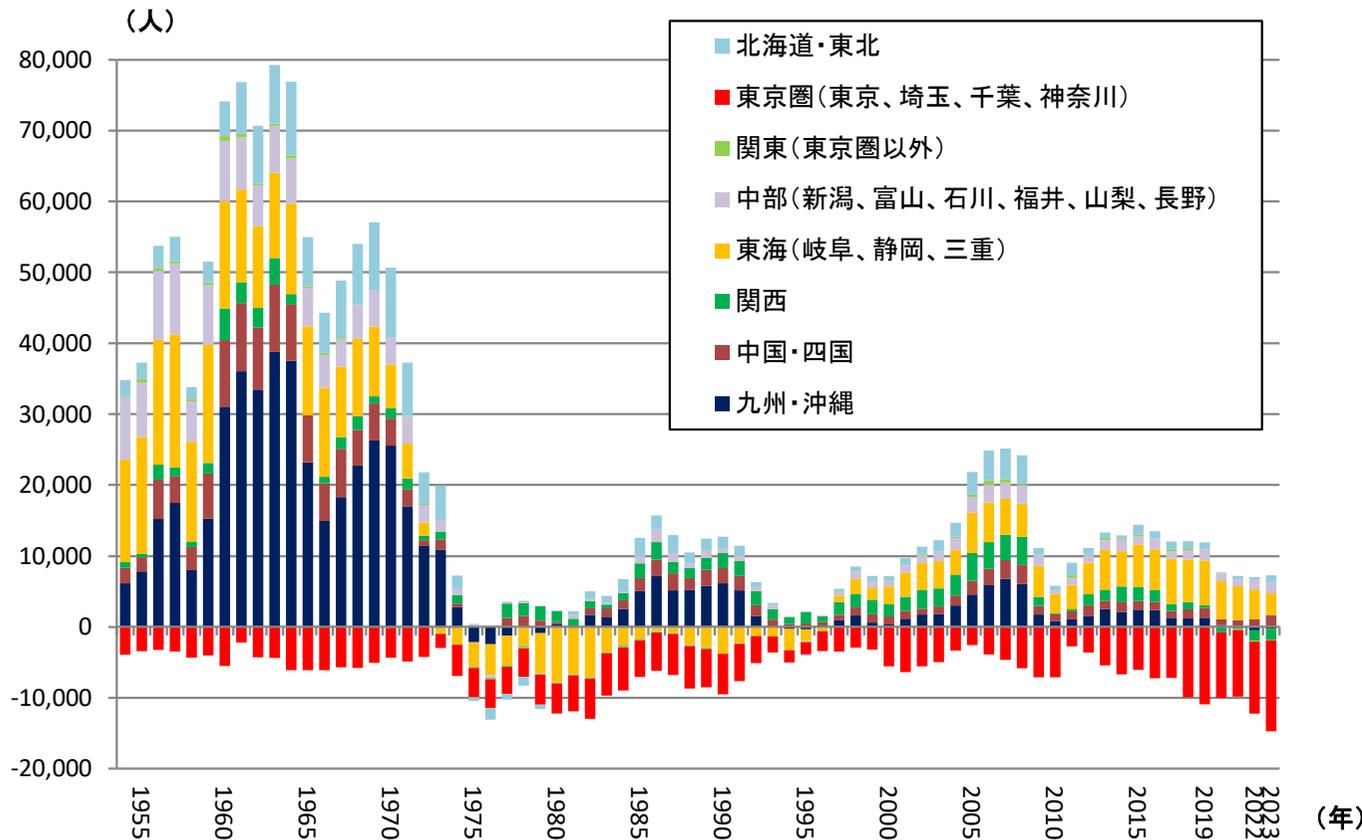
…大都市圏

転出入超過数の推移

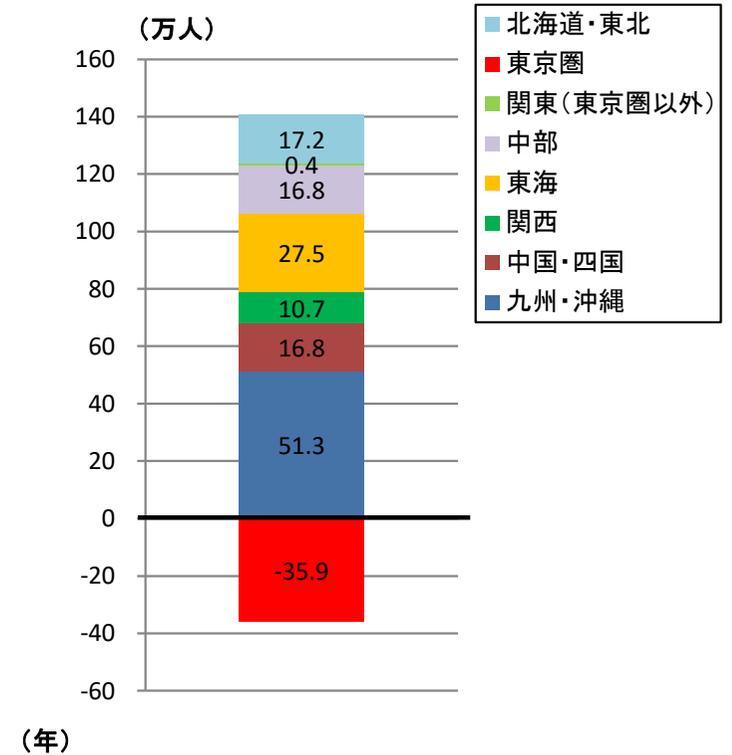


- 東京圏に対しては転出超過が続いており、近年では拡大傾向にある。
- 他地域においても、関西に対しては2020年以降、九州・沖縄に対しては2021年以降、転出超過の傾向にある。

■本県と全国地域ブロック別の転出入の推移



■転入超過数累計(1954年～2023年)



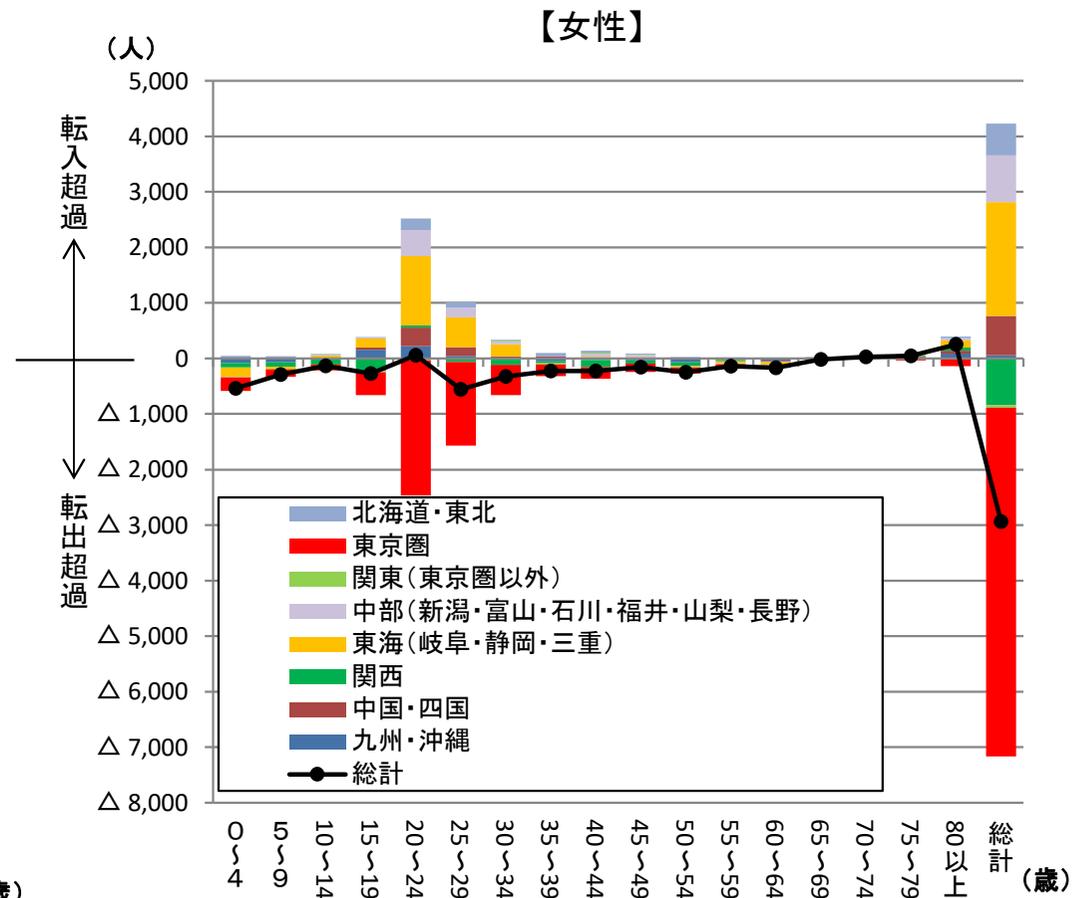
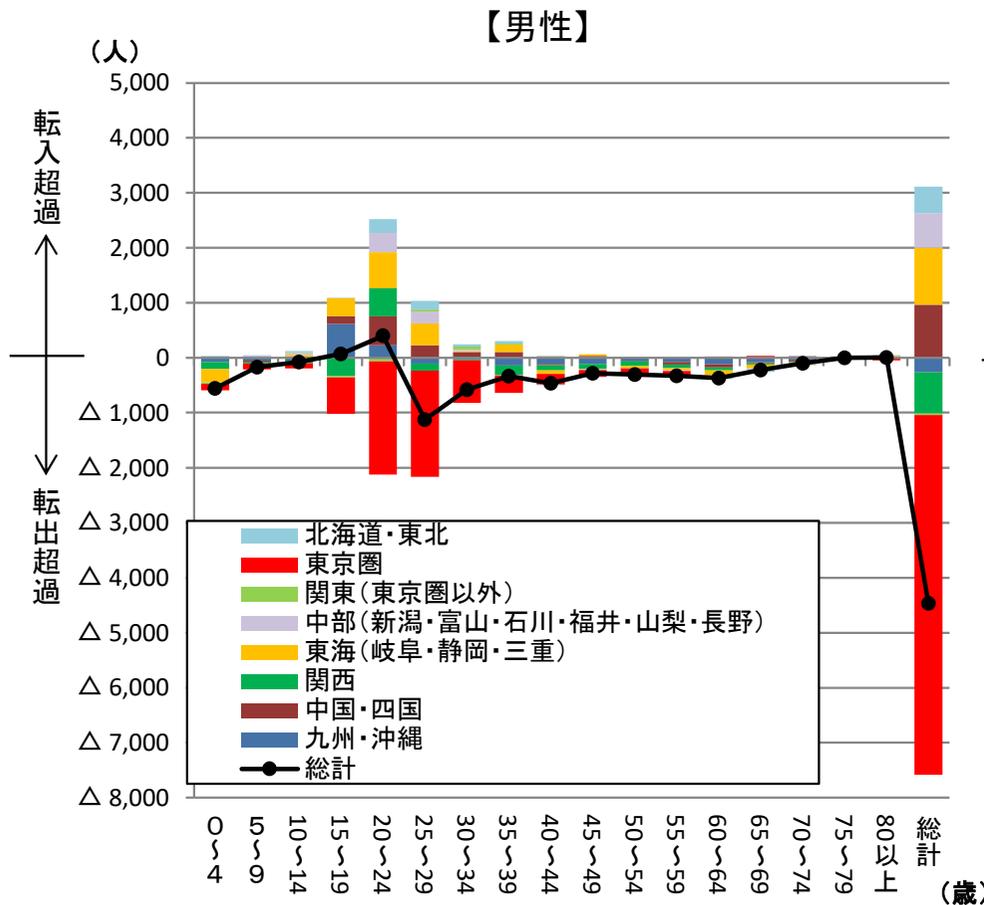
出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成
※日本人のみ

男女別・年齢別転出入超過数(国内移動)



- 男性は、15～24歳で東海(岐阜・静岡・三重)、中国・四国、九州・沖縄などを中心に転入超過となっているが、東京圏(東京・埼玉・千葉・神奈川)に対しては20～29歳で転出超過が大きくなっている。
- 女性は、東海からの転入超過が男性よりも大きいですが、東京圏に対しては、大学卒業後の就職時に当たる20～24歳における転出超過が、男性よりも大きくなっている。

愛知県の男女別・年齢階級別の人口移動状況(2023年)

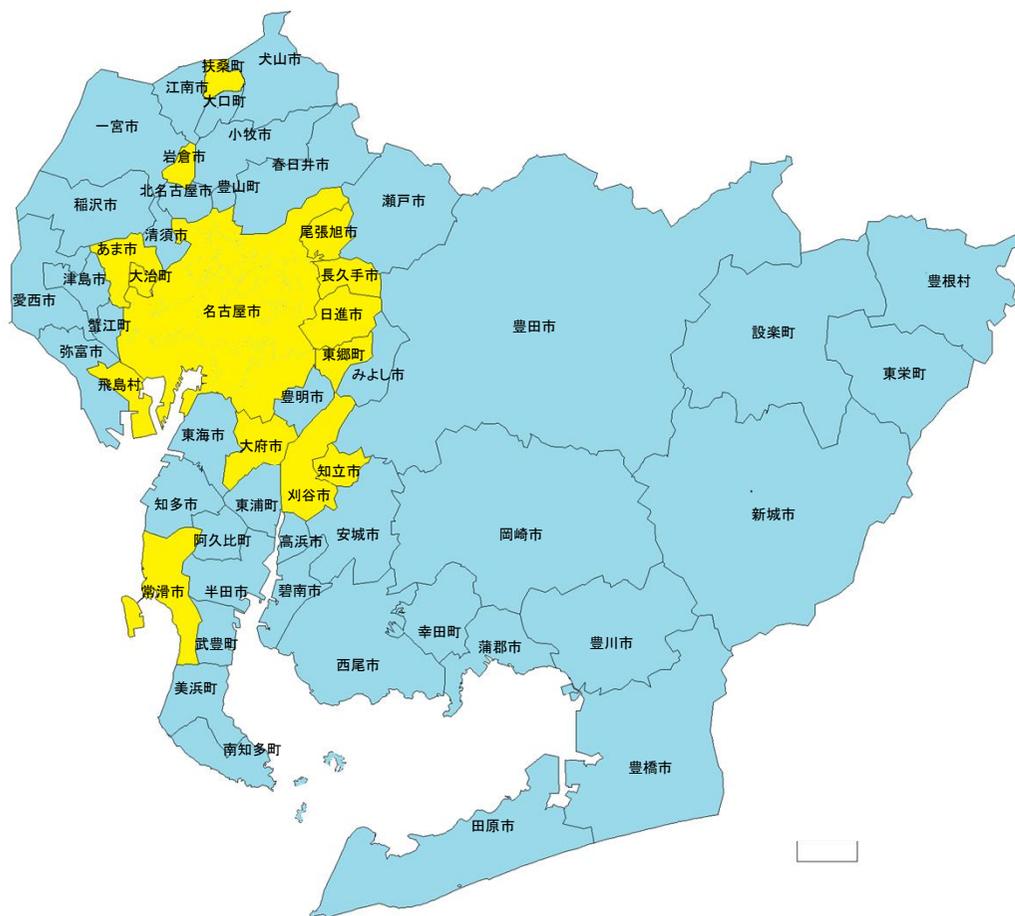


出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」をもとに作成
※2023年1月1日から12月31日までの移動の計、日本人のみ

市町村別人口



○ 直近1年間(2022年10月～2023年9月)の県内の市町村別人口は、名古屋市をはじめ14市町村で増加した一方、中核市を含む40市町村で減少しており、人口減少地域は県内全域に広がっている。



: 人口が増加している市町村
 : 人口が減少している市町村

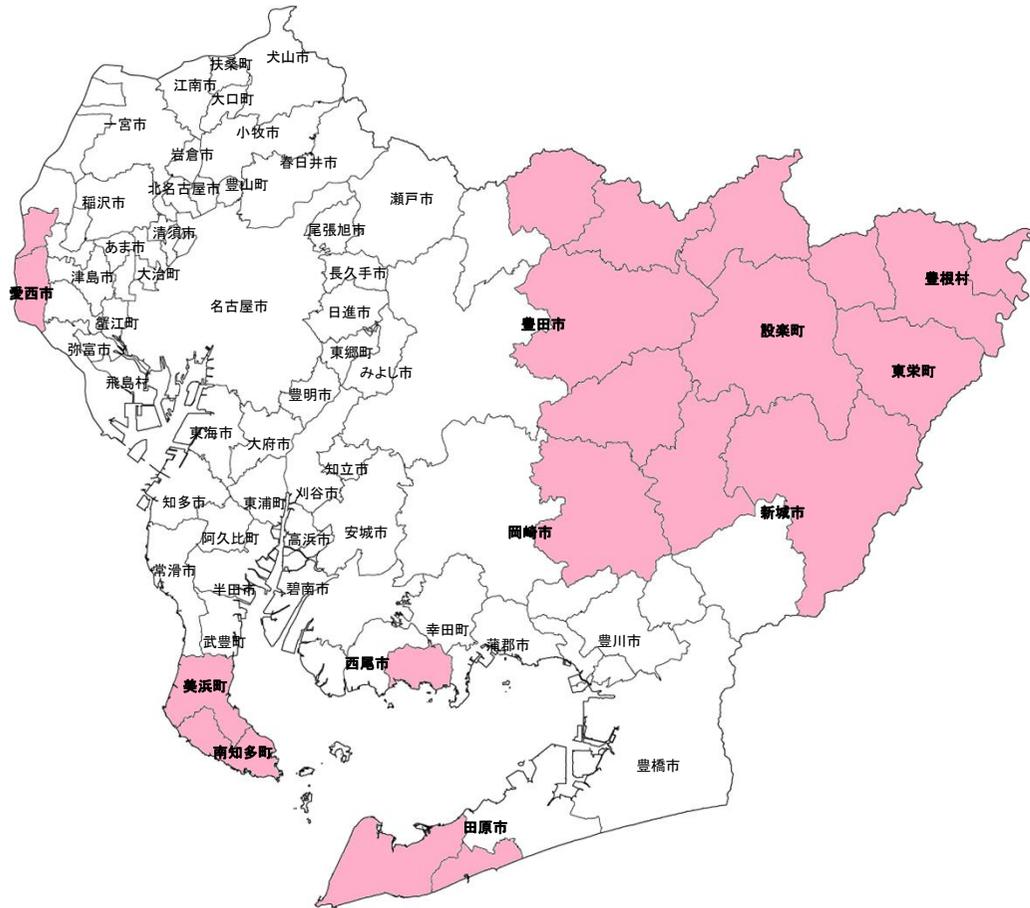
市町村名	2023.10.1 推計人口	2022.10～23.9 人口増減数	市町村名	2023.10.1 推計人口	2022.10～23.9 人口増減数
名古屋市	2,326,683	905	岩倉市	47,745	35
豊橋市	365,346	△ 1,871	豊明市	68,483	△ 347
岡崎市	381,893	△ 1,207	日進市	93,006	202
一宮市	374,479	△ 1,848	田原市	57,251	△ 807
瀬戸市	126,229	△ 775	愛西市	59,250	△ 498
半田市	115,713	△ 415	清須市	66,927	△ 166
春日井市	305,319	△ 1,455	北名古屋市	86,271	△ 60
豊川市	184,245	△ 112	弥富市	42,405	△ 236
津島市	59,319	△ 487	みよし市	62,120	△ 36
碧南市	71,984	△ 233	あま市	85,801	82
刈谷市	153,599	152	長久手市	61,183	159
豊田市	416,127	△ 1,129	東郷町	43,882	250
安城市	186,303	△ 535	豊山町	15,651	△ 73
西尾市	167,907	△ 302	大口町	24,219	△ 37
蒲都市	77,975	△ 676	扶桑町	34,307	50
犬山市	71,823	△ 648	大治町	32,894	159
常滑市	58,216	238	蟹江町	36,899	△ 92
江南市	96,593	△ 475	飛島村	4,451	34
小牧市	146,352	△ 822	阿久比町	28,036	△ 201
稲沢市	132,133	△ 859	東浦町	49,559	△ 95
新城市	42,232	△ 648	南知多町	15,486	△ 305
東海市	112,528	△ 409	美浜町	21,712	△ 226
大府市	93,176	157	武豊町	43,245	△ 22
知多市	82,552	△ 566	幸田町	42,207	△ 157
知立市	72,139	51	設楽町	4,014	△ 153
尾張旭市	83,261	37	東栄町	2,663	△ 90
高浜市	46,187	△ 36	豊根村	917	△ 26
			愛知県	7,480,897	△ 16,624

出典:愛知県「あいちの人口(年報)」をもとに作成

旧88市町村別人口の増減率(11市町村分)



○ 県内54市町村のうち11市町村については、旧88市町村別の人口が、2005年と2020年を比べて、10%以上減少している地区があり、当該地区における人口問題対策が特に必要である。



■ : 人口が10%以上減少している地区

出典: 国勢調査結果をもとに作成

市町村名	総人口(人)				増減率 2005年 →2020年
	2005年	2010年	2015年	2020年	
岡崎市 (2006年合併)	363,807	372,357	381,051	384,654	5.7%
(旧: 岡崎市)	354,704	363,743	372,942	377,123	6.3%
(旧: 額田町)	9,103	8,614	8,109	7,531	△17.3%
豊田市 (2005年合併)	412,141	421,487	422,542	422,330	2.5%
(旧: 豊田市)	368,025	378,828	382,293	384,488	4.5%
(旧: 藤岡町)	19,101	19,425	19,097	18,864	△1.2%
(旧: 小原村)	4,303	4,085	3,716	3,317	△22.9%
(旧: 足助町)	9,263	8,627	7,892	7,108	△23.3%
(旧: 下山村)	5,237	4,983	4,484	3,997	△23.7%
(旧: 旭町)	3,284	2,976	2,692	2,450	△25.4%
(旧: 稲武町)	2,928	2,563	2,368	2,106	△28.1%
西尾市 (2011年合併)	163,232	165,298	167,990	169,046	3.6%
(旧: 西尾市)	104,321	106,823	111,167	113,523	8.8%
(旧: 一色町)	24,068	23,825	23,231	22,671	△5.8%
(旧: 吉良町)	22,041	22,298	21,916	21,705	△1.5%
(旧: 幡豆町)	12,802	12,352	11,676	11,147	△12.9%
新城市 (2005年合併)	52,178	49,864	47,133	44,355	△15.0%
(旧: 新城市)	35,730	34,930	33,668	32,200	△9.9%
(旧: 鳳来町)	13,382	12,197	11,029	9,916	△25.9%
(旧: 作手村)	3,066	2,737	2,436	2,239	△27.0%
田原市 (2005年合併)	66,390	64,119	62,364	59,360	△10.6%
(旧: 田原町)	39,062	37,921	37,928	36,793	△5.8%
(旧: 赤羽根町)	5,950	5,798	5,406	5,091	△14.4%
(旧: 渥美町)	21,378	20,400	19,030	17,476	△18.3%
愛西市 (2005年合併)	65,556	64,978	63,088	60,829	△7.2%
(旧: 佐屋町)	29,590	29,515	28,936	28,230	△4.6%
(旧: 立田村)	8,116	7,814	7,405	6,920	△14.7%
(旧: 八開村)	4,832	4,730	4,519	4,314	△10.7%
(旧: 佐織町)	23,018	22,919	22,228	21,365	△7.2%
南知多町	21,909	20,549	18,707	16,617	△24.2%
美浜町	26,294	25,178	23,575	22,496	△14.4%
設楽町 (2005年合併)	6,306	5,769	5,074	4,437	△29.6%
(旧: 設楽町)	4,832	4,435	3,883	3,426	△29.1%
(旧: 津具村)	1,474	1,334	1,191	1,011	△31.4%
東栄町	4,347	3,757	3,446	2,942	△32.3%
豊根村 (2005年合併)	1,517	1,336	1,135	1,017	△33.0%
(旧: 豊根村)	1,309	1,196	1,052	955	△27.0%
(旧: 富山村)	208	140	83	62	△70.2%

11市町村の年齢3区分別人口の推移(1980~2020)

岡崎市 …… P.10

豊田市 …… P.11

西尾市 …… P.13

新城市 …… P.15

田原市 …… P.16

愛西市 …… P.17

南知多町 …… P.19

美浜町 …… P.20

設楽町 …… P.21

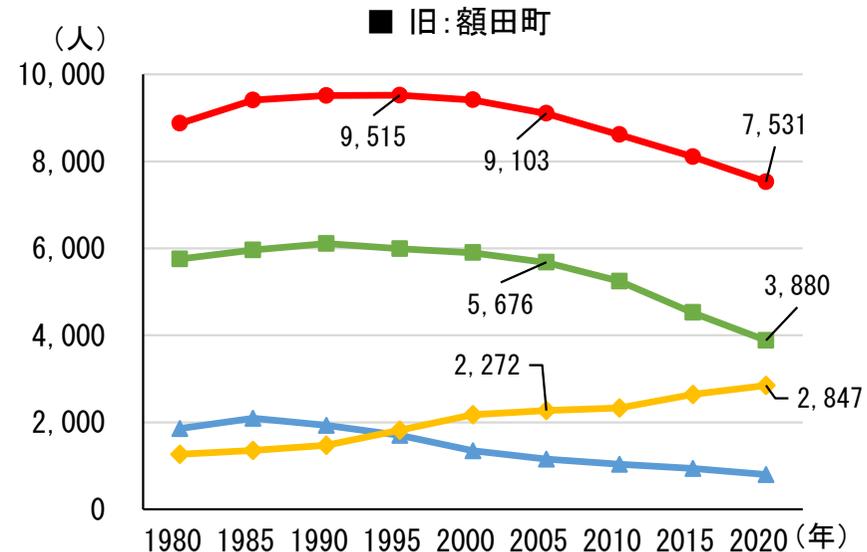
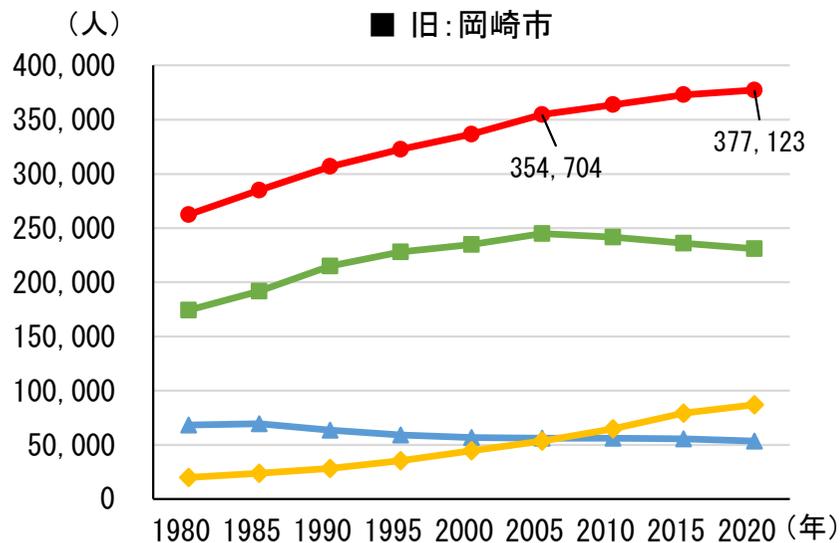
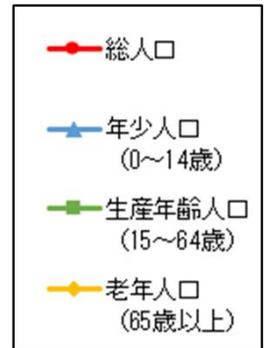
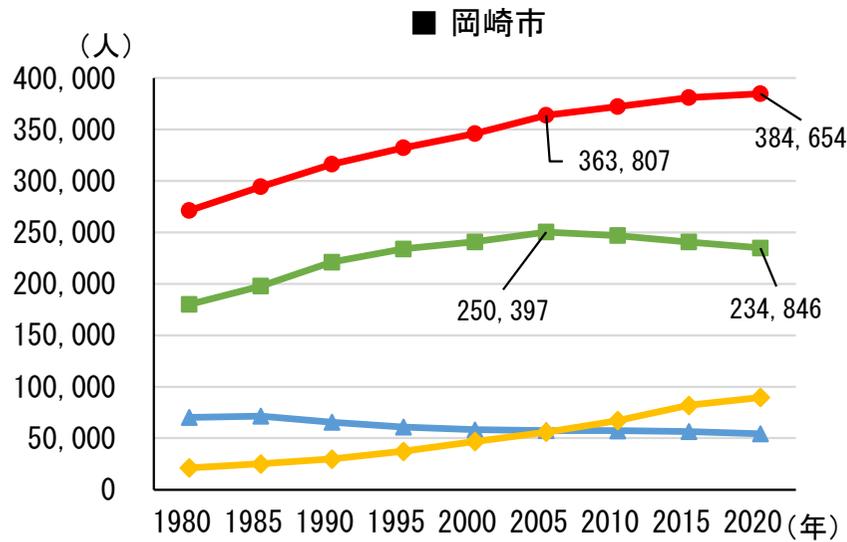
東栄町 …… P.22

豊根村 …… P.23

岡崎市の年齢3区分別人口の推移(1980~2020)



- 市全体では、総人口は増加傾向にあるが、生産年齢人口は2005年以降、減少に転じた。
- 旧額田町では、1995年以降、総人口が減少しており、また、旧岡崎市に先行して、老年人口が年少人口を上回った。また、生産年齢人口と老年人口の差が年々縮小傾向にある。

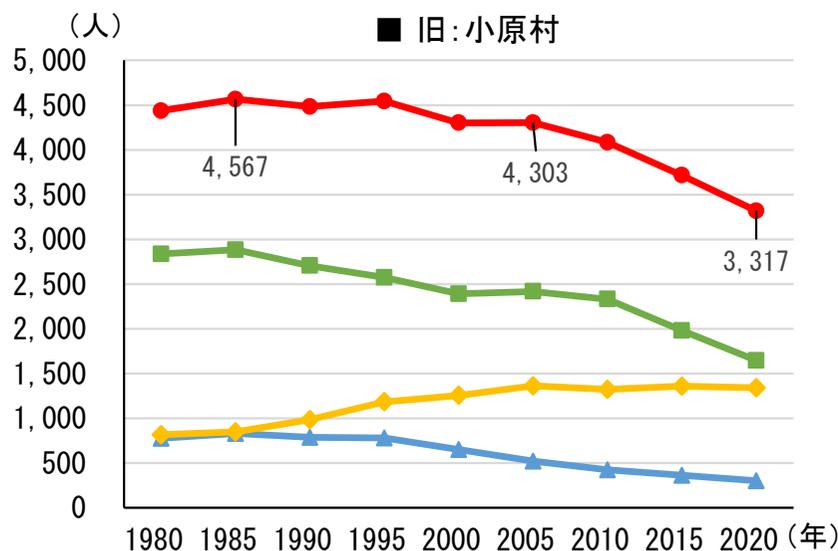
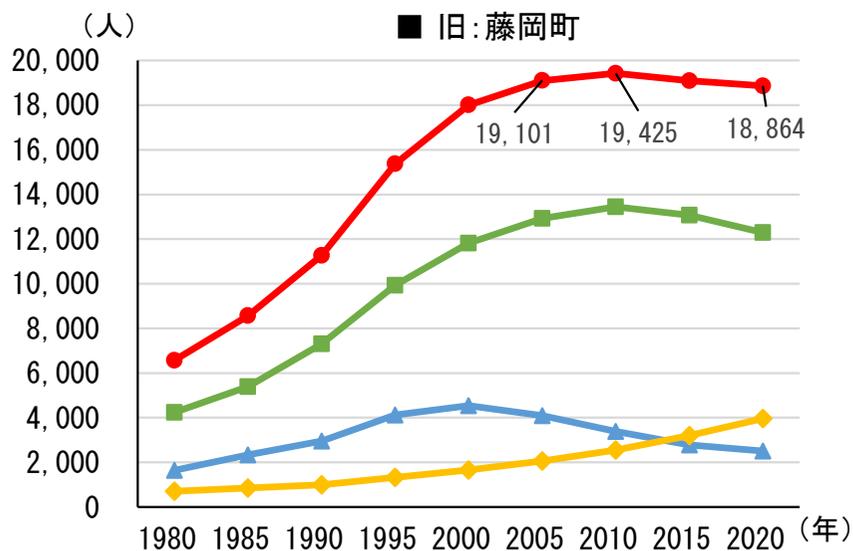
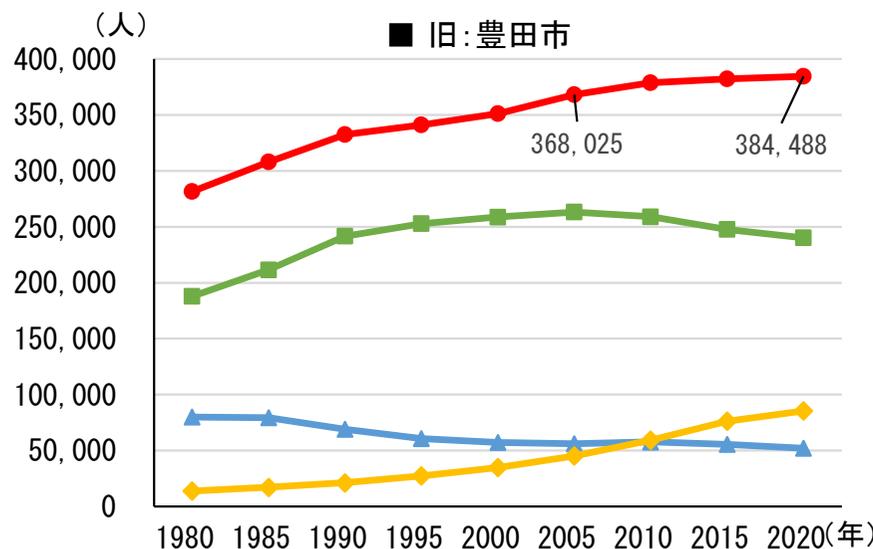
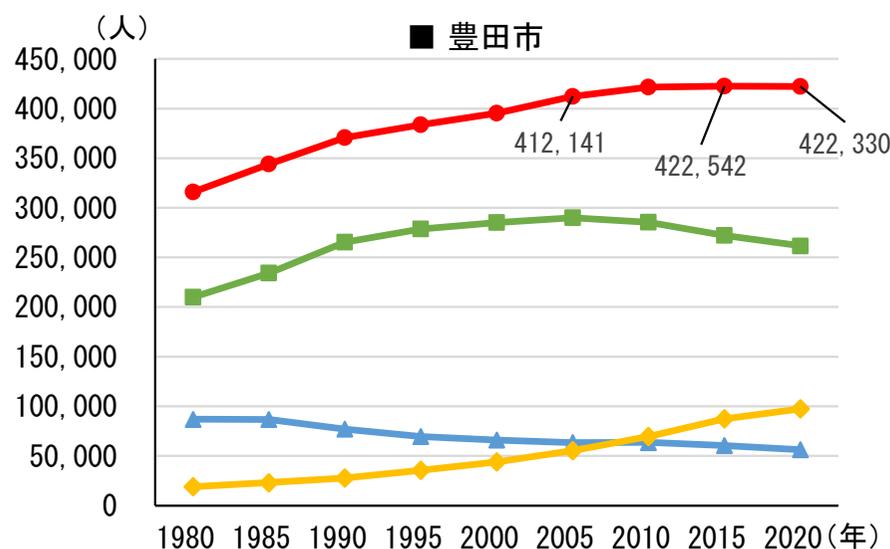


出典：総務省「国勢調査」(1980~2020年)をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較(調査非実施年の数値は考慮していない)

豊田市の年齢3区分別人口の推移①(1980~2020)

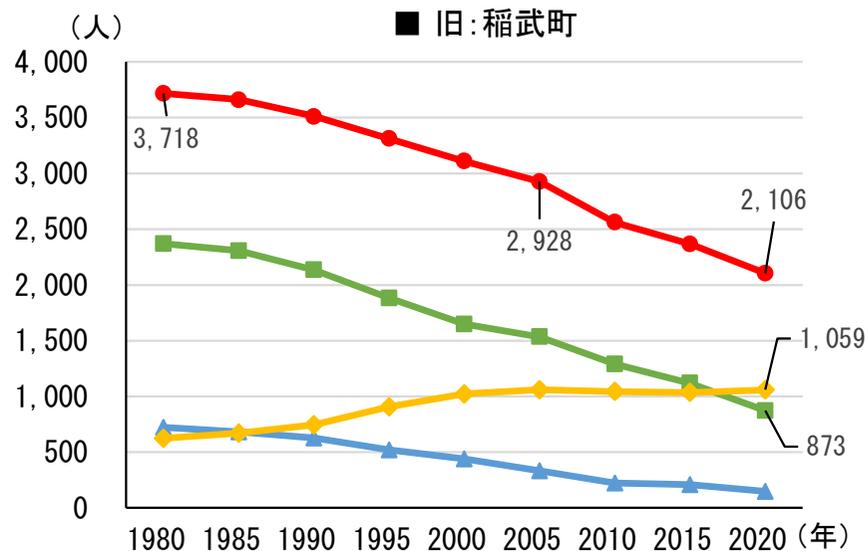
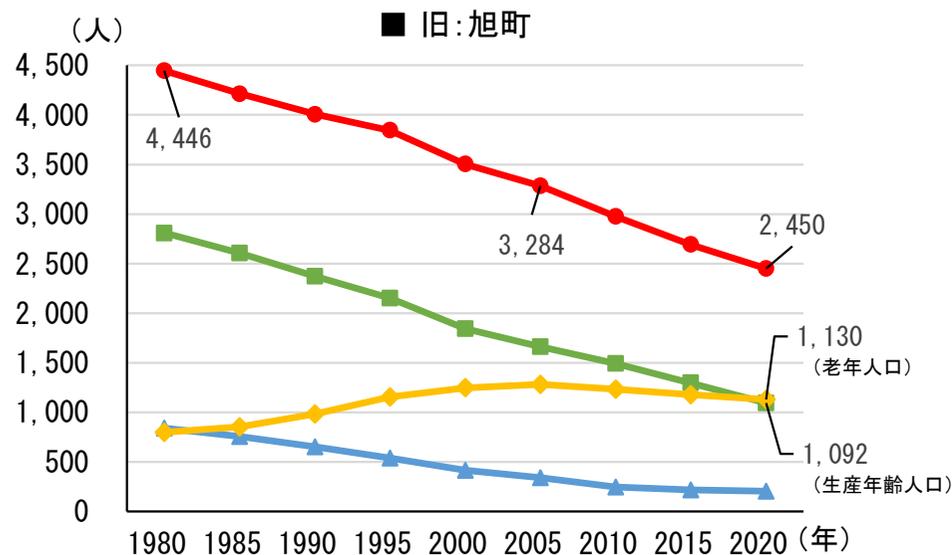
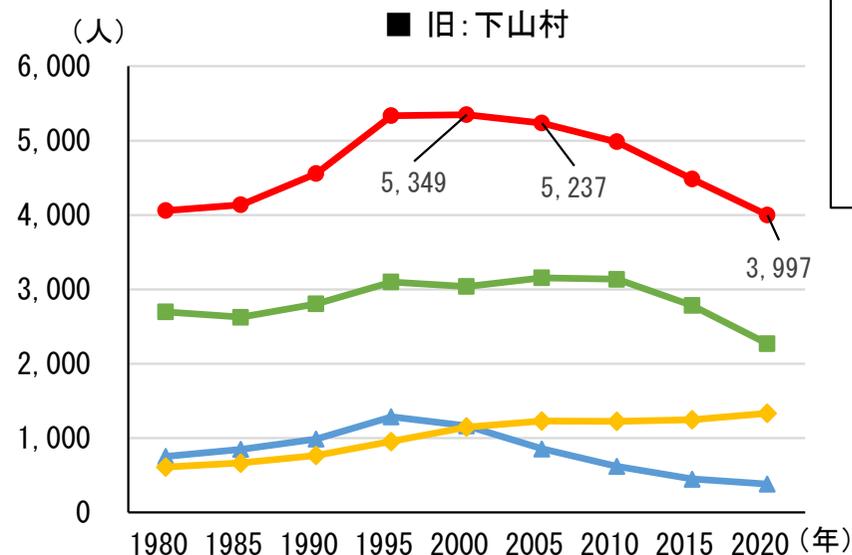
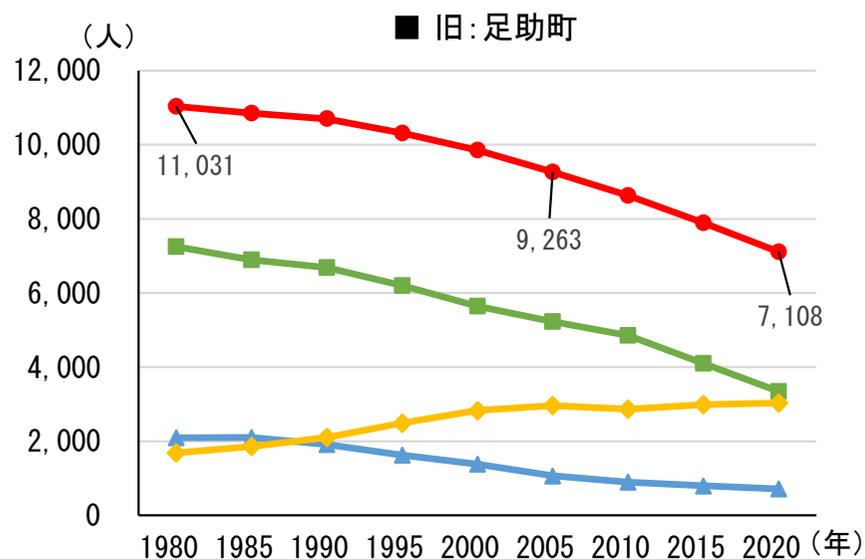


- 旧小原村・足助町・下山村・旭町・稲武町においては、旧豊田市・藤岡町に先行し、2000年以前に老年人口が年少人口を上回っている。
- 旧旭町・稲武町は、生産年齢人口の減少が著しく、2020年には老年人口を下回っている。



出典：総務省「国勢調査」(1980~2020年)をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較(調査非実施年の数値は考慮していない)

豊田市の年齢3区分別人口の推移②(1980~2020)

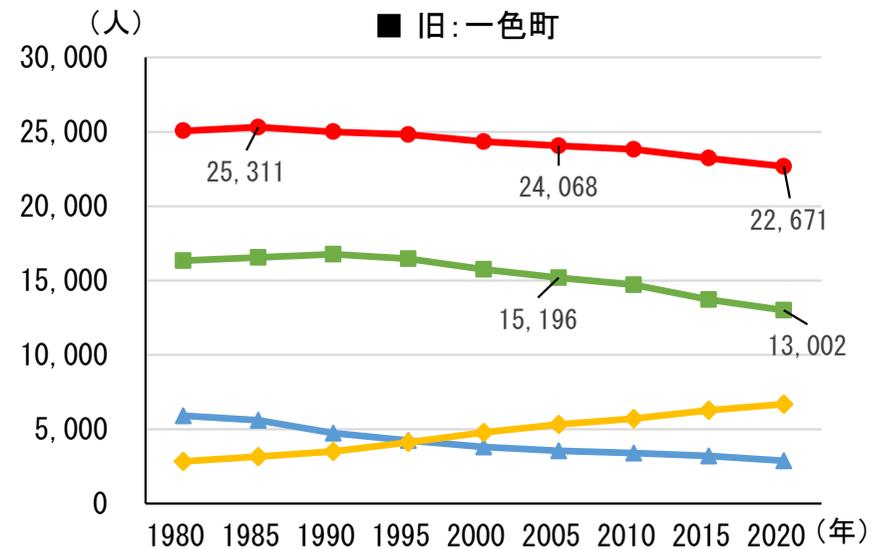
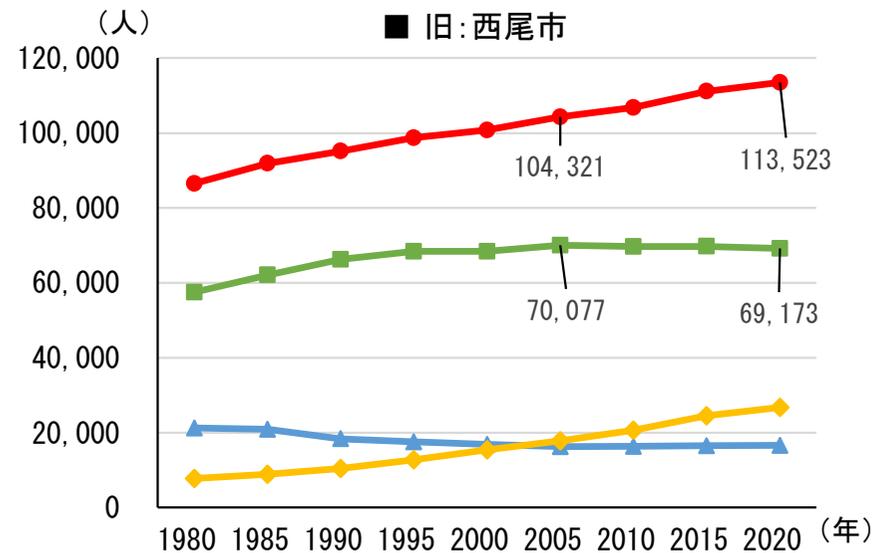
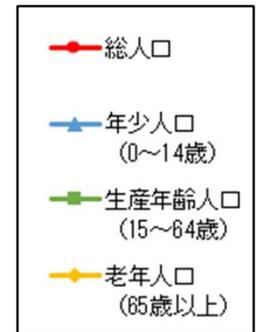
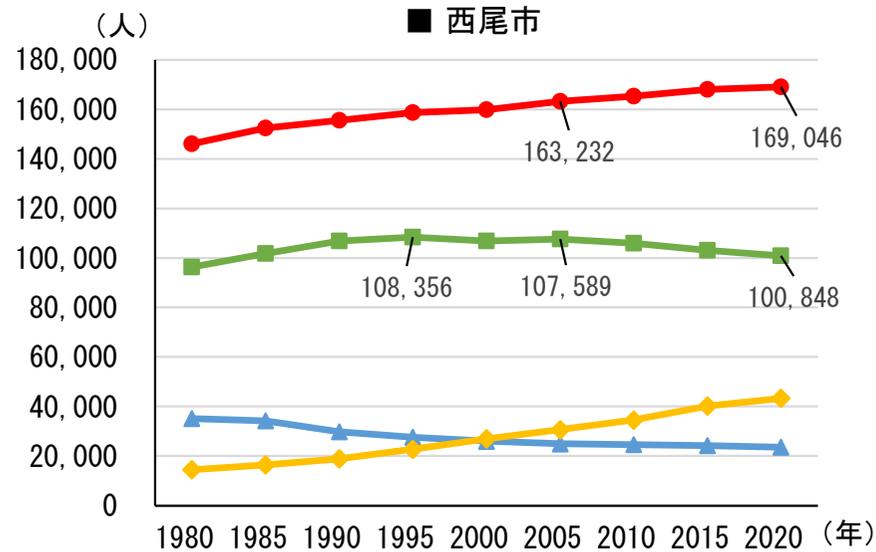


出典：総務省「国勢調査」（1980~2020年）をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較（調査非実施年の数値は考慮していない）

西尾市の年齢3区分別人口の推移①(1980~2020)

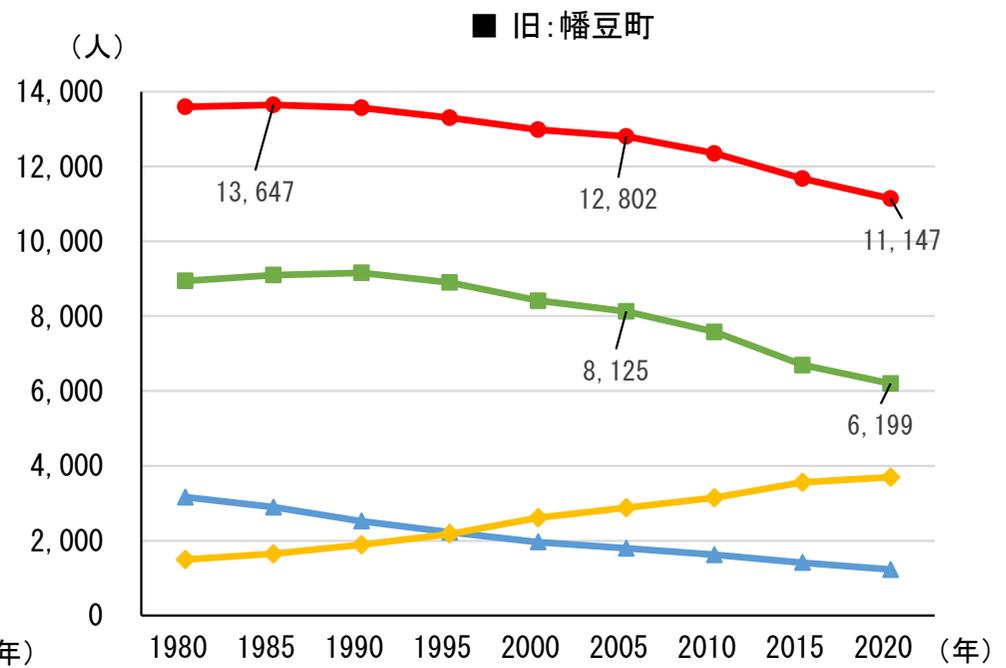
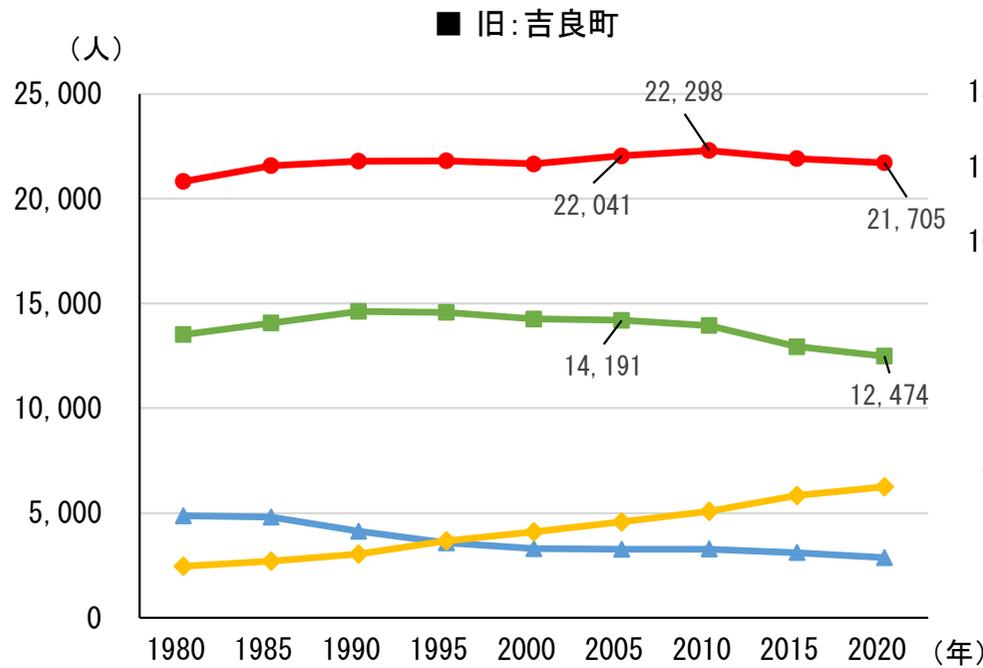
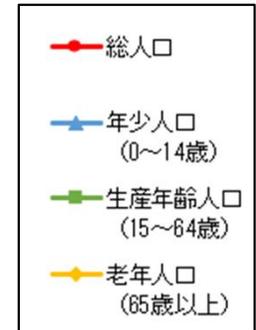


- 市全体では、総人口は増加傾向にあるものの、生産年齢人口は2005年以降、減少に転じている。
- 旧一色町・吉良町・幡豆町では、2020年の生産年齢人口が2005年比で約12~23%減少している。



出典：総務省「国勢調査」(1980~2020年)をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較(調査非実施年の数値は考慮していない)

西尾市の年齢3区分別人口の推移②(1980~2020)

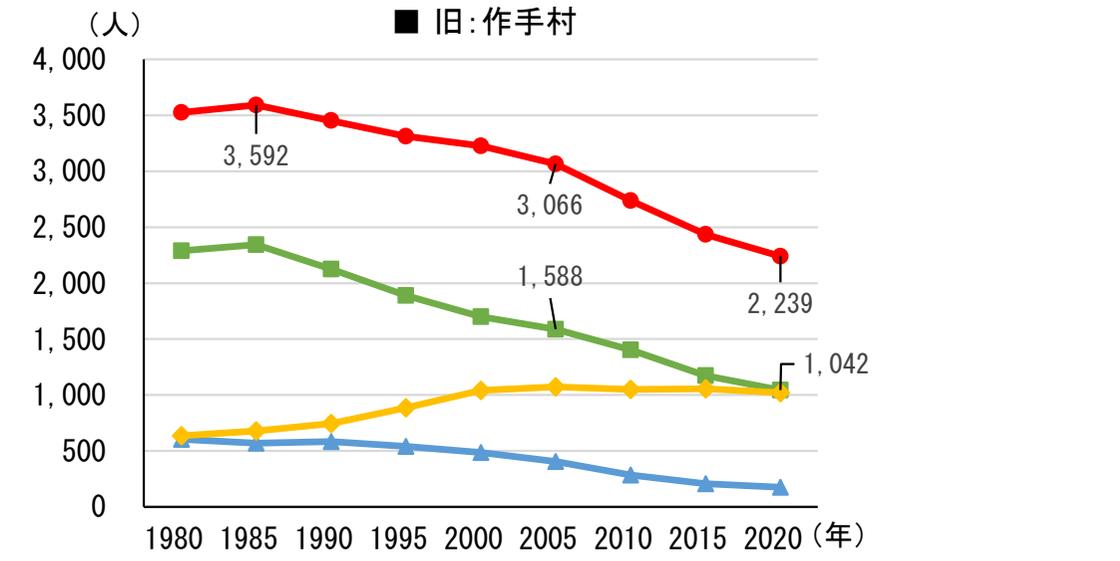
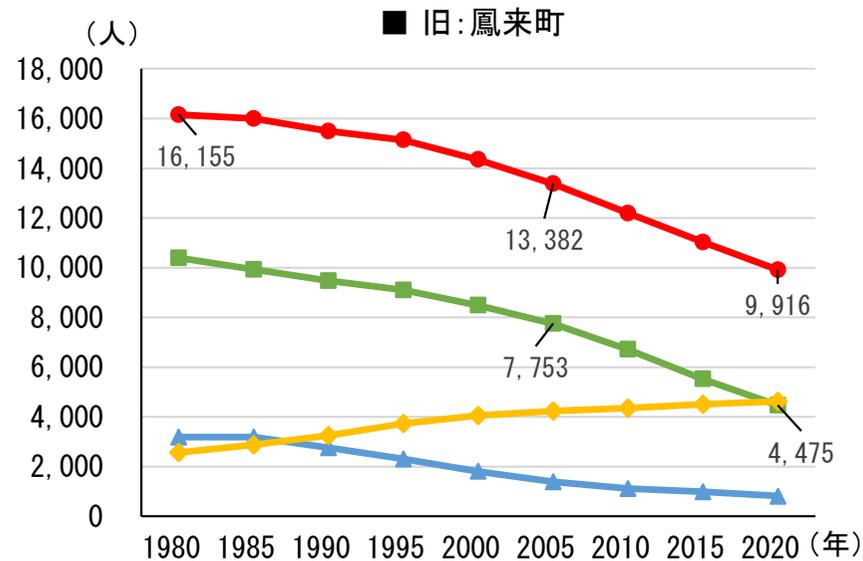
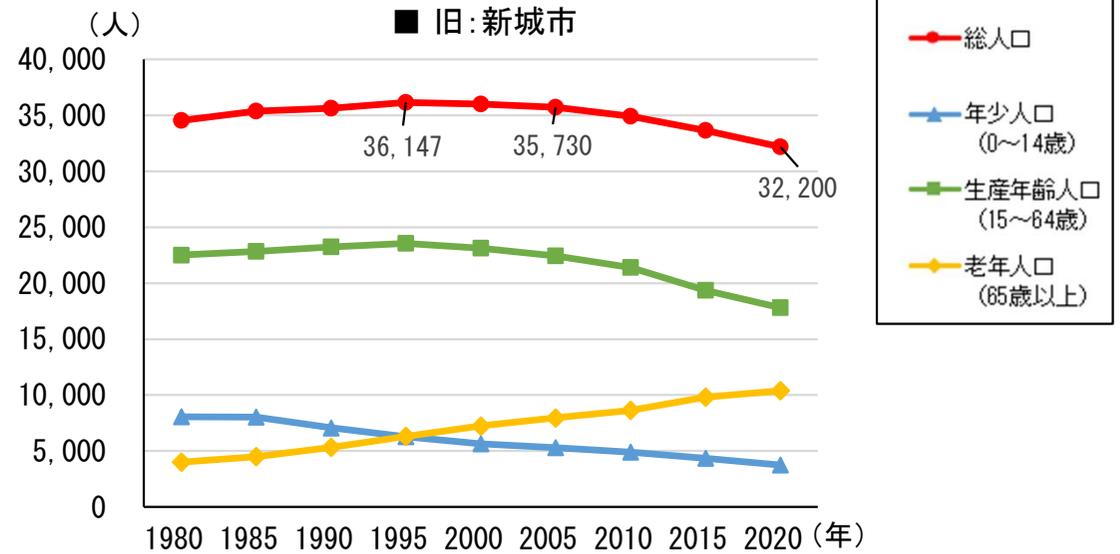
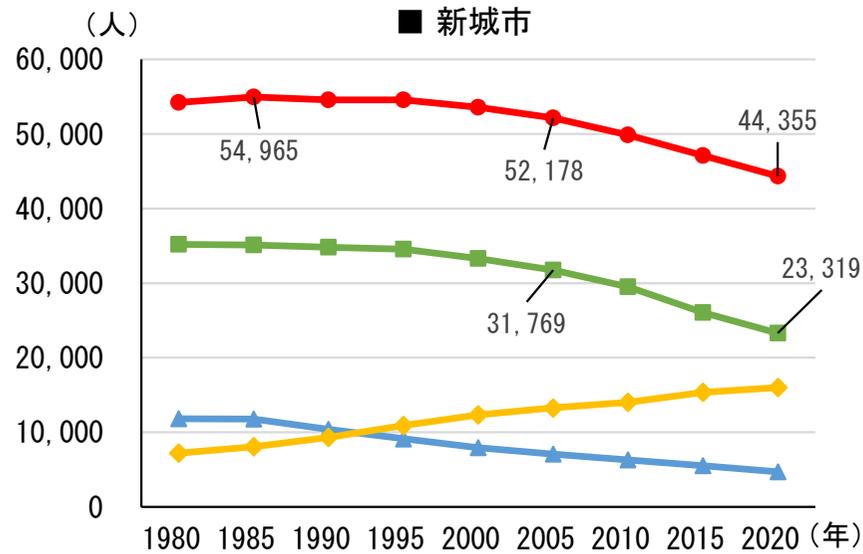


出典：総務省「国勢調査」（1980~2020年）をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較（調査非実施年の数値は考慮していない）

新城市の年齢3区分別人口の推移(1980~2020)



○ 市全体では、総人口及び生産年齢人口は減少傾向が続くが、特に旧鳳来町・作手村においては減少幅が大きく、2020年の生産年齢人口は2005年比で3割以上減少している。

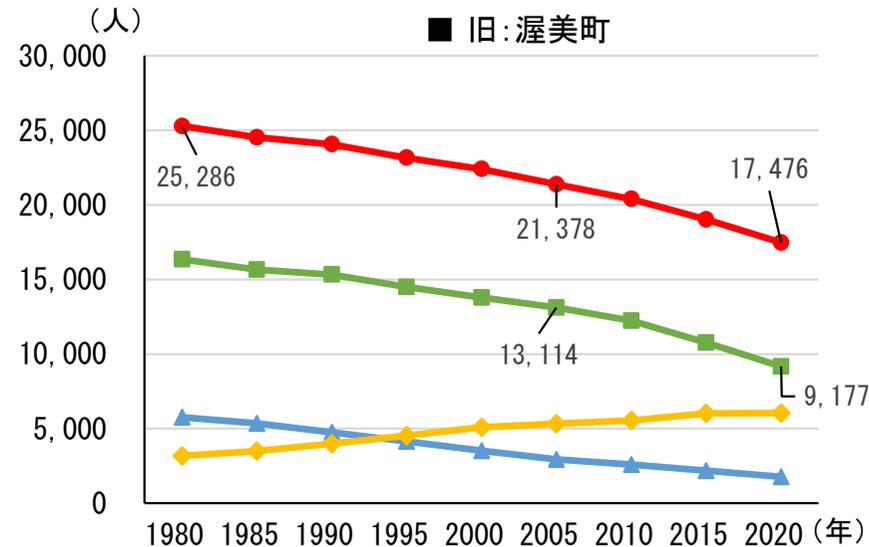
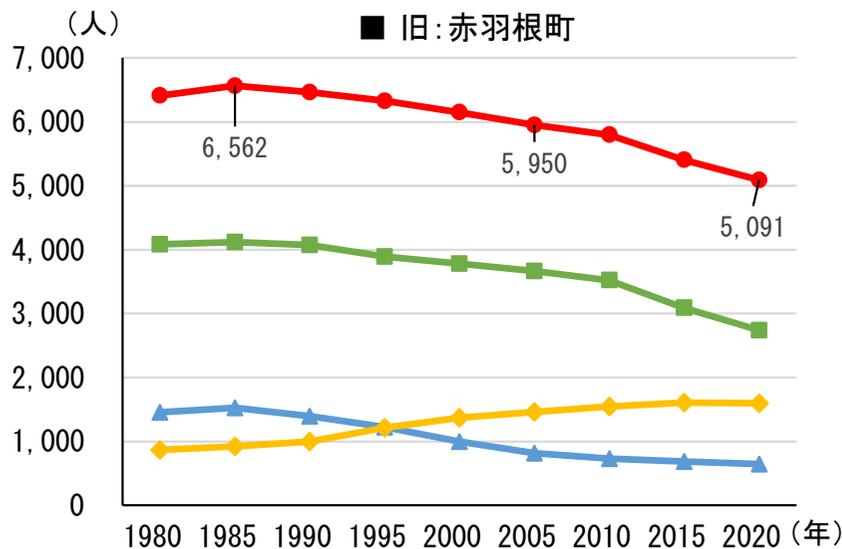
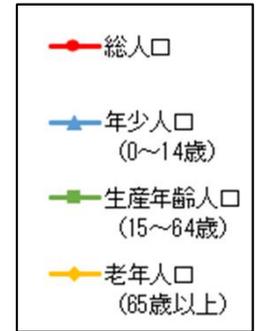
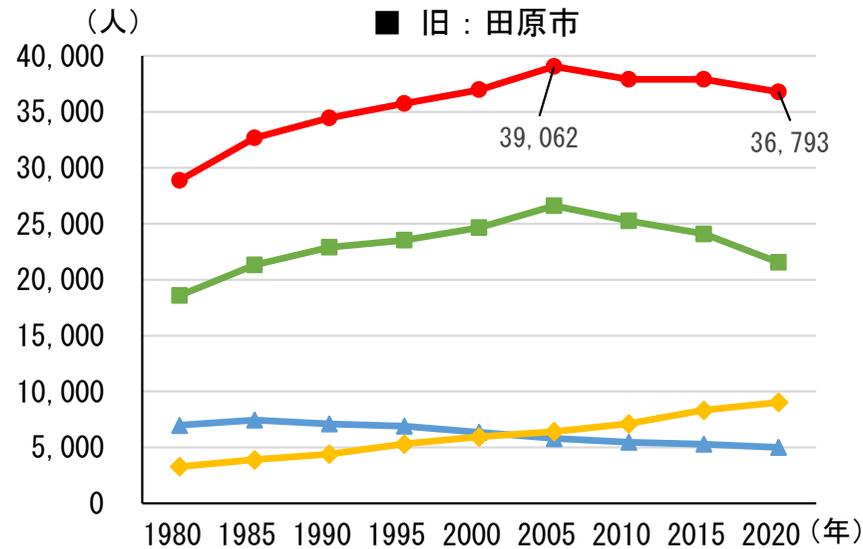
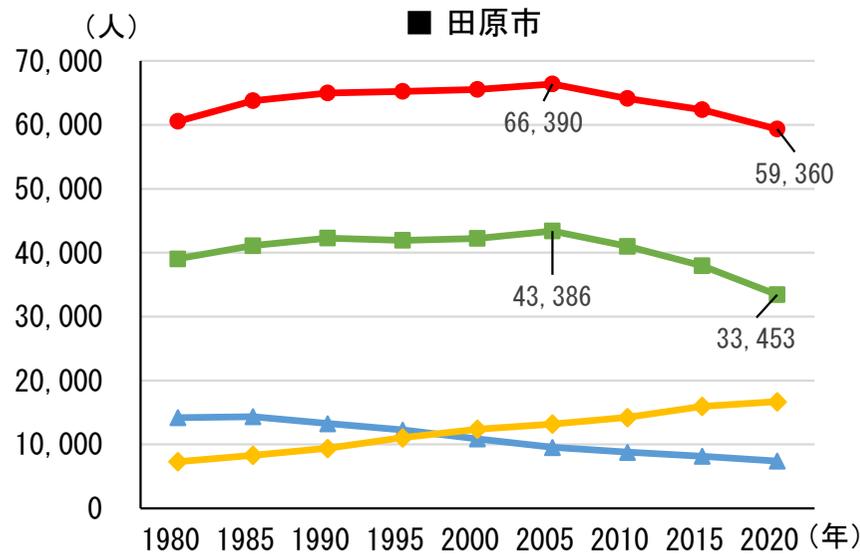


出典：総務省「国勢調査」(1980~2020年)をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較(調査非実施年の数値は考慮していない)

田原市の年齢3区分別人口の推移(1980~2020)



- 市全体では、生産年齢人口の減少幅が近年拡大し、2020年は2005年比で20%以上減少している。
- 特に、旧渥美町においては、2005年比で3割以上減少している。

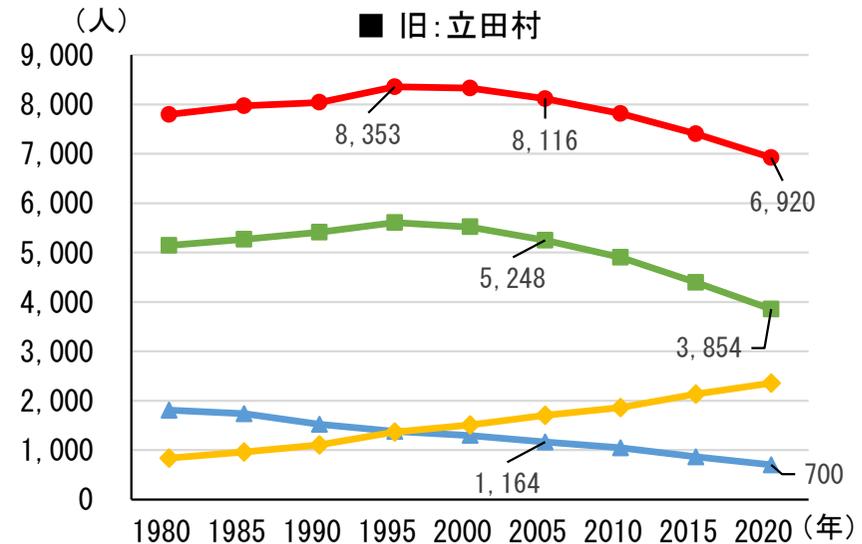
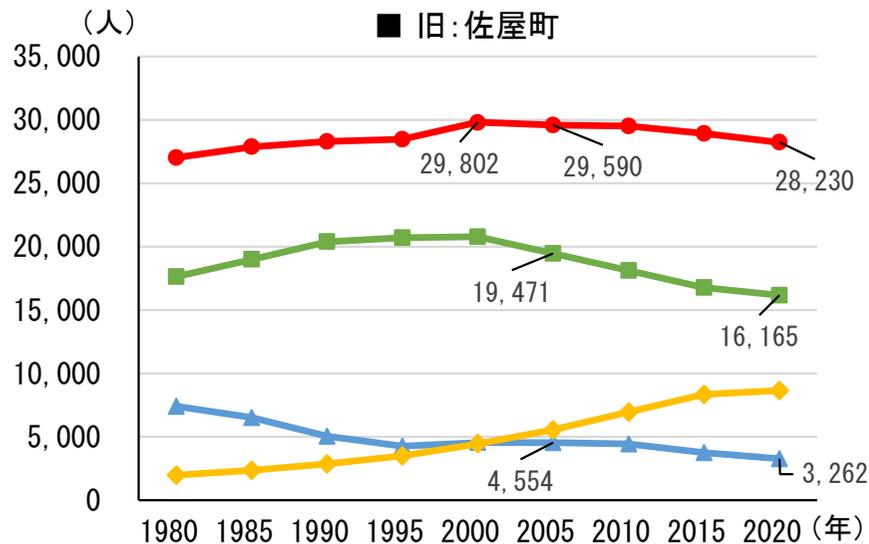
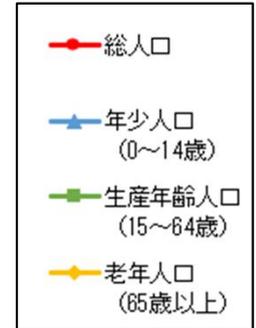
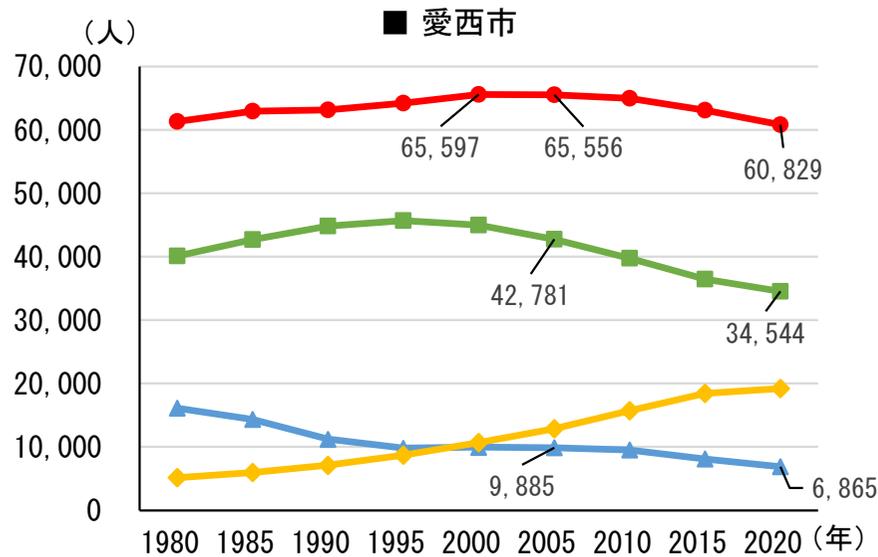


出典：総務省「国勢調査」(1980~2020年)をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較(調査非実施年の数値は考慮していない)

愛西市の年齢3区分別人口の推移①(1980~2020)

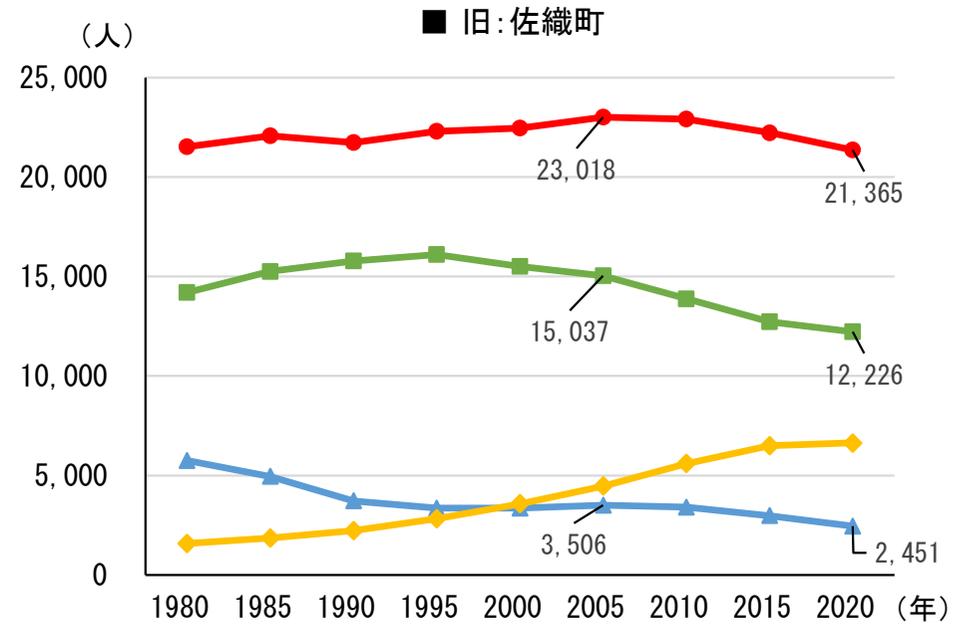
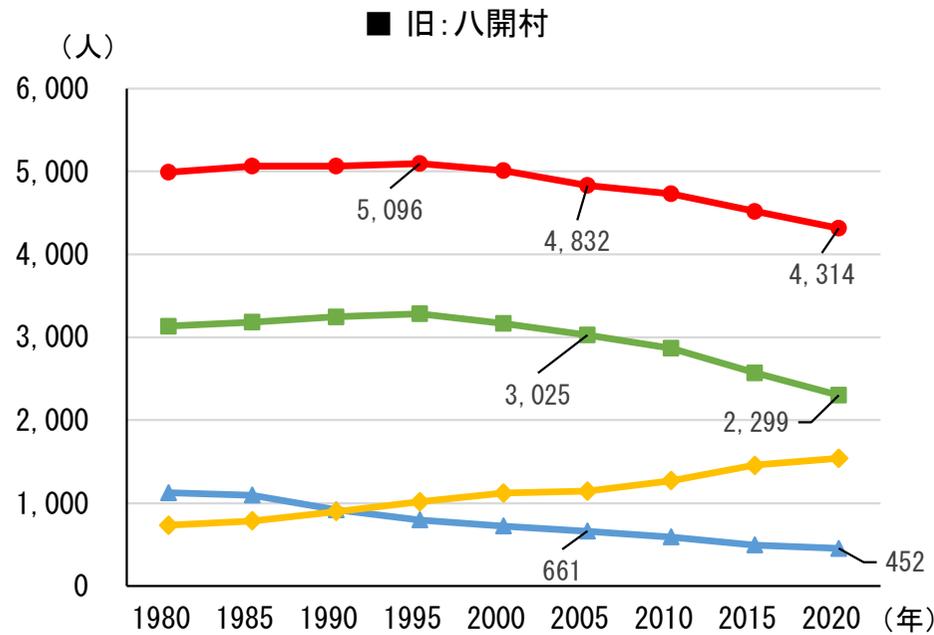
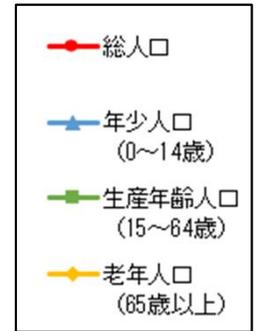


- 市全体では、2020年の年少人口が2005年比で3割以上、生産年齢人口が約2割減少している。
- 旧立田村・八開村では、旧佐屋町・佐織町に比べ、年少人口、生産年齢人口の減少率が大きい。



出典：総務省「国勢調査」(1980~2020年)をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較(調査非実施年の数値は考慮していない)

愛西市の年齢3区分別人口の推移②(1980~2020)

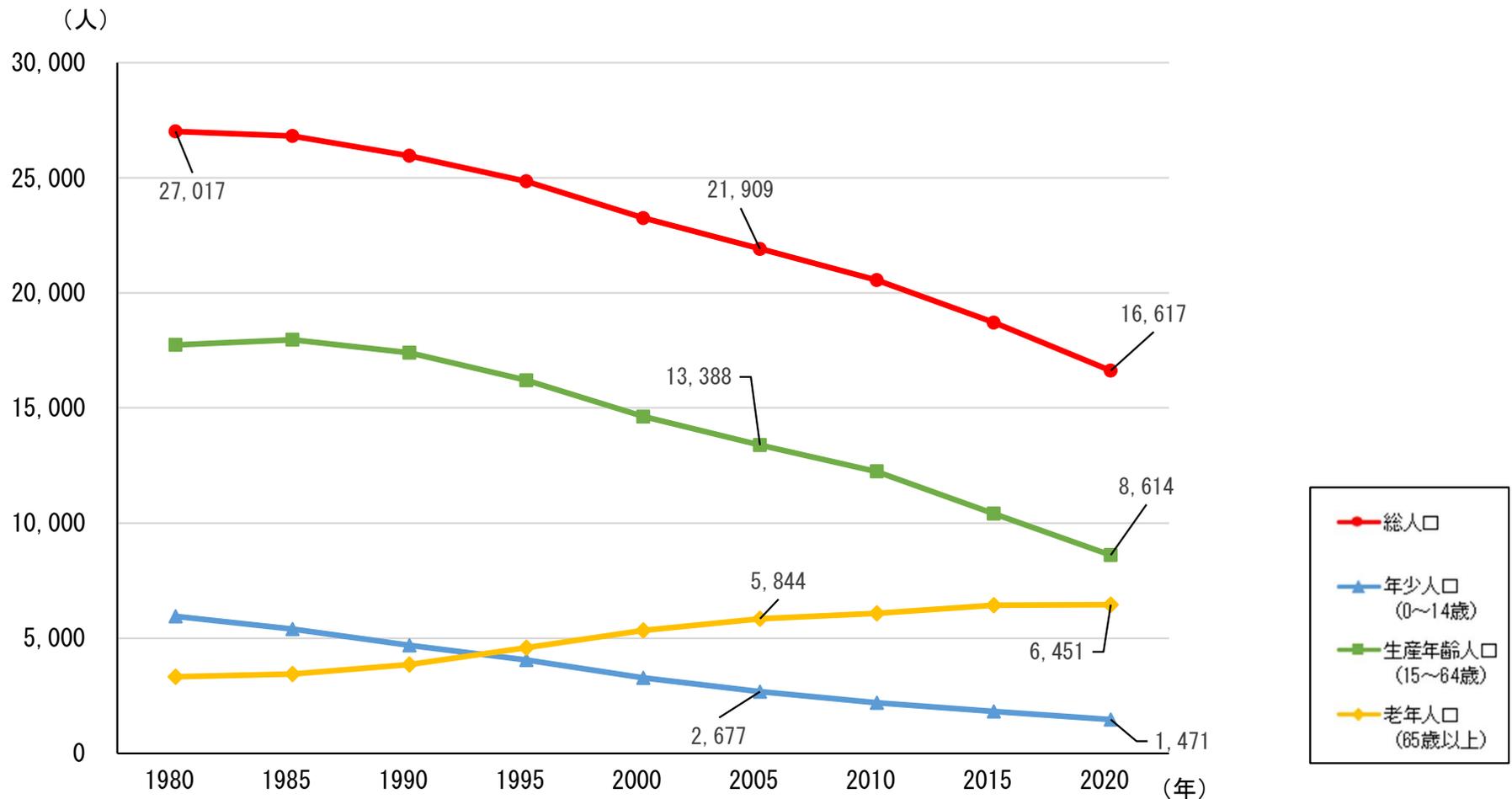


出典：総務省「国勢調査」(1980~2020年)をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較(調査非実施年の数値は考慮していない)

南知多町の年齢3区分別人口の推移(1980~2020)



- 2020年の総人口は、2005年比で約25%減少し、年齢3区分別では、年少人口が約45%、生産年齢人口は約35%減少するなど、人口減少が著しい。
- 2020年の老年人口について、2005年比の増加率は約10%に留まるが、総人口に占める老年人口の割合は、2020年時点で約4割となっており、高齢化率が高い。

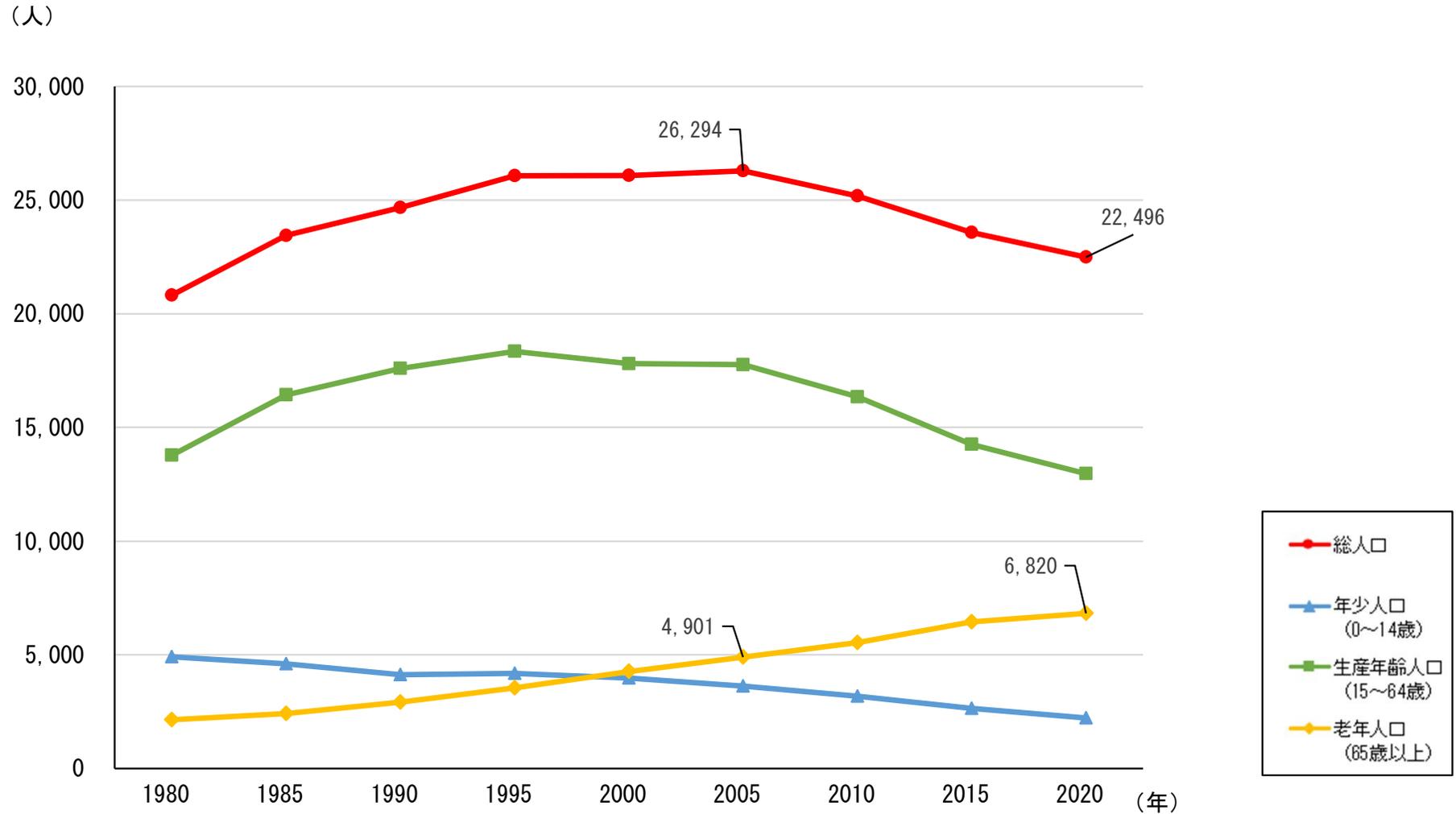


出典：総務省「国勢調査」(1980~2020年)をもとに作成
※ 国勢調査年ごとに数値を比較(調査非実施年の数値は考慮していない)

美浜町の年齢3区分別人口の推移(1980~2020)



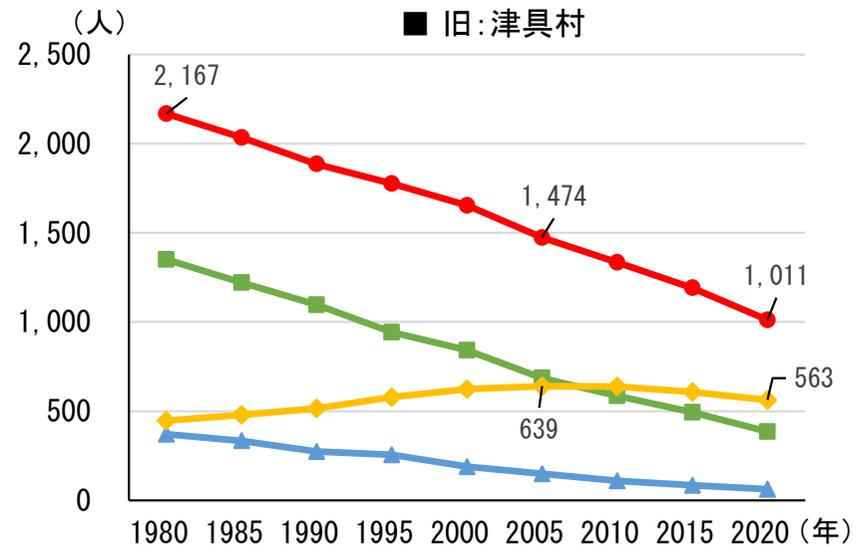
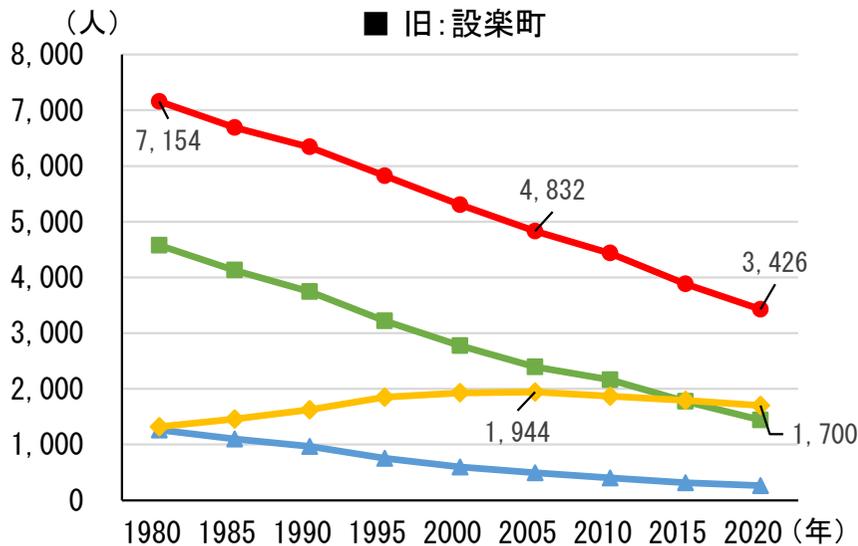
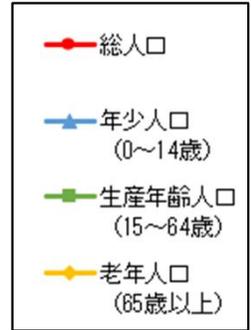
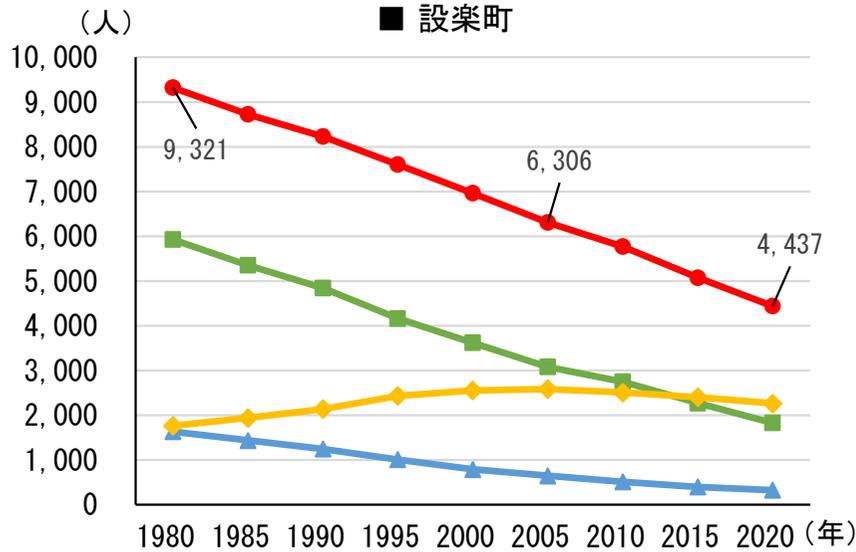
- 2005年以降、総人口が減少へ転じ、2020年の総人口は、2005年比で約15%減少している。
- 2020年の老年人口は、2005年比で約40%増加している。



設楽町の年齢3区分別人口の推移(1980~2020)



- 町全体では、2020年の総人口が2005年比で約30%減少するなど、人口減少が著しい。
- 旧設楽町・津具村ともに、2005年以降、老年人口が増加に転じている。

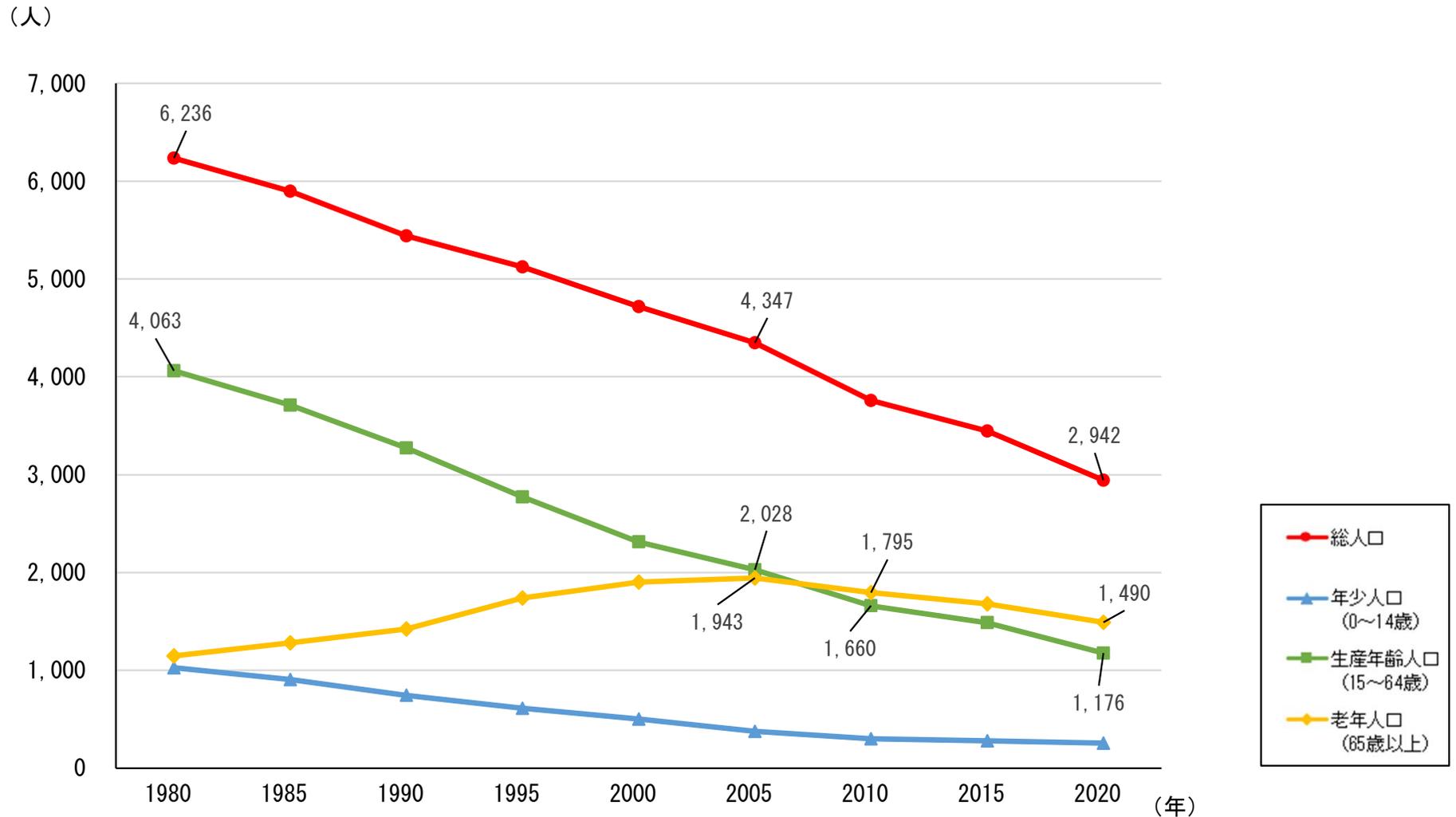


出典：総務省「国勢調査」(1980~2020年)をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較(調査非実施年の数値は考慮していない)

東栄町の年齢3区分別人口の推移(1980~2020)



- 2020年の総人口が2005年比で3割以上減少するなど、人口減少が著しい。
- 1980年以降、生産年齢人口が急激に減少し、2010年以降、老年人口が生産年齢人口を上回っている。

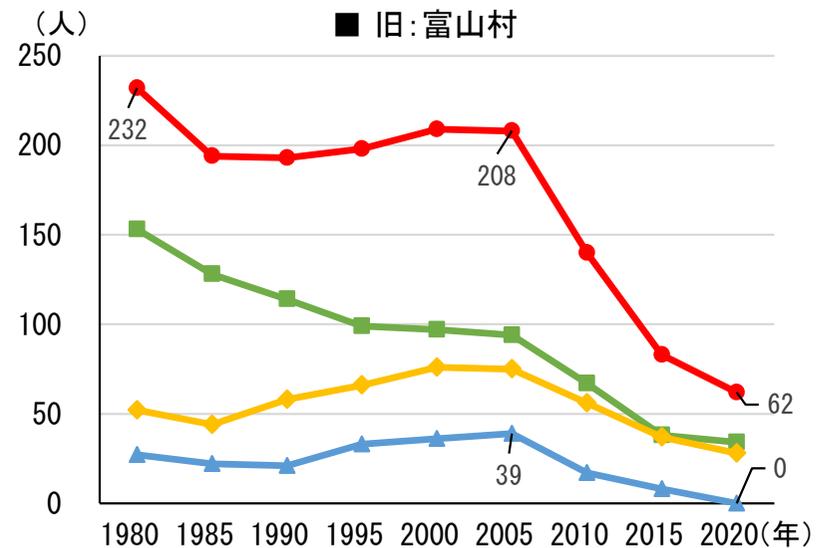
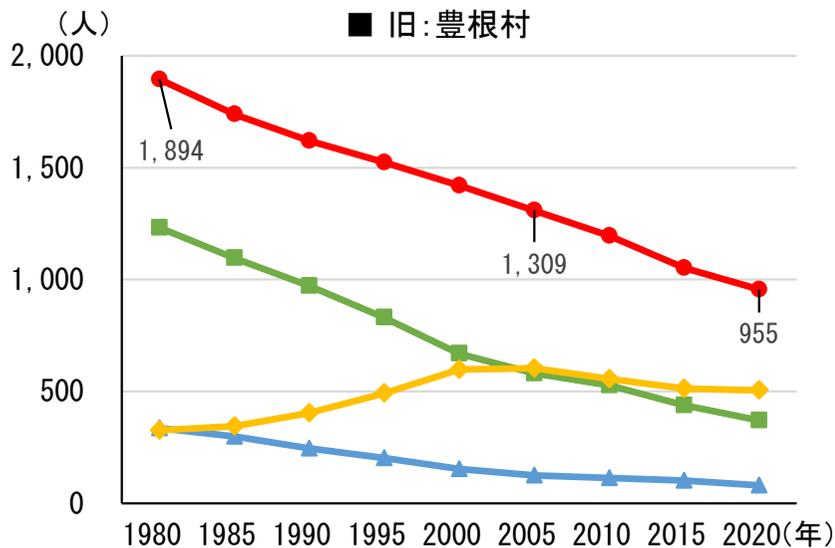
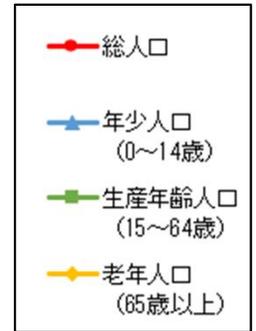
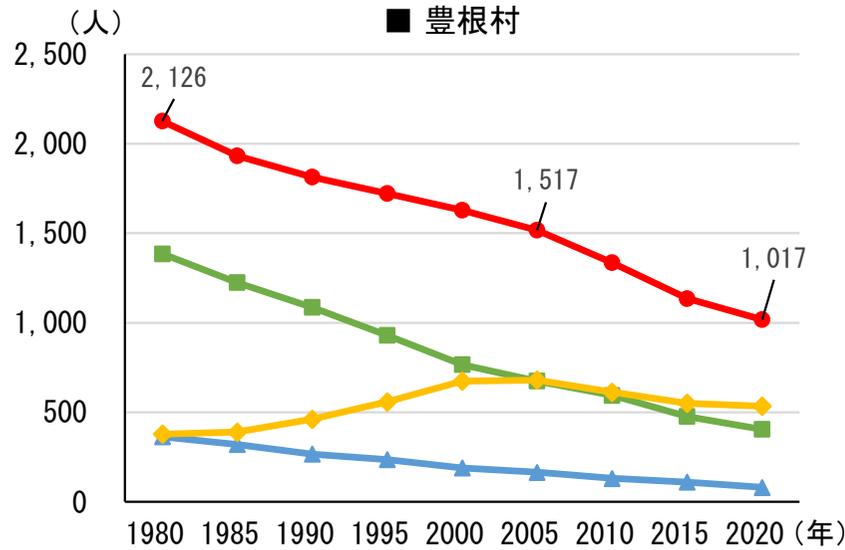


出典：総務省「国勢調査」(1980~2020年)をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較(調査非実施年の数値は考慮していない)

豊根村の年齢3区分別人口の推移(1980~2020)



○ 村全体では、2020年の総人口が、2005年比で3割以上減少しており、特に旧富山村では、2005年比で総人口が7割以上減少し、また、2020年時点での年少人口が0人となるなど、人口減少が著しい。



出典：総務省「国勢調査」(1980~2020年)をもとに作成
 ※ 国勢調査年ごとに数値を比較(調査非実施年の数値は考慮していない)